

6. 調査結果

1.1 鳥類（猛禽類）行動圏調査

オオタカ、ハヤブサ

の出現状況の概要は、表 6-1.8 に示すとおりである。

表 6-1.8 (1/2) 調査対象の出現状況（平成 29 年）

種名	法令・文献での指定状況			調査対象	出現状況（平成29年確認回数）							
	宮城県 RL*	環境省 RL**	種の 保存法**3		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
オオタカ	準絶滅 危惧	準絶滅 危惧	—		1	8	3	15	8	13	14 (8)	(12)
						1	1					
						2						1
ハヤブサ	準絶滅 危惧	絶滅 危惧 Ⅱ類	国内希少 野生 動植物種		11	30	8	5	13	12	15 (18)	3
					7	1	1	2		2		
					6	2	1	1			1	

表 6-1.8 (2/2) 調査対象の出現状況（平成 30 年）

種名	法令・文献での指定状況			調査対象	出現状況（平成30年確認回数）							
	宮城県 RL*	環境省 RL**	種の 保存法**3		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
オオタカ	準絶滅 危惧	準絶滅 危惧	—		2	10	7	19	11	9	4	2
							1	2				
					1		4					
ハヤブサ	準絶滅 危惧	絶滅 危惧 Ⅱ類	国内希少 野生 動植物種		16	16	17	6	13	11 (11)	9 (32)	2
					2	9	5	3	1	5		
					1	2	2	2			1	

行動圏調査における確認回数の合計を示した。()は、各つがいの巣立ち後の幼鳥の確認回数を示す。

※1 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成 28 年 3 月）

準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種。宮城県において、現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位に移行する要素を有するもの。

※2 「環境省レッドリスト 2018」（環境省 HP、平成 30 年 10 月閲覧）

絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。

準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。

※3 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」

（平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号）平成 29 年 6 月 2 日公布（平成 29 年法律第 51 号）改正

平成 29 年はオオタカ [] (途中失敗)、ハヤブサ [] の繁殖が確認された。平成 30 年はオオタカ青葉山つがい (途中失敗)、 []、ハヤブサ [] の繁殖が確認された。これ以外の希少猛禽類の繁殖は確認されなかった。計画路線周辺では工事着工以前からオオタカ、ハヤブサ以外の希少猛禽類の繁殖は確認されておらず、工事がこれらの猛禽類の生息・繁殖に影響を与えた可能性は低いと考えられる。オオタカ、ハヤブサの調査結果の詳細は以下に述べるとおりである。

1) オオタカ

(1) 確認状況

オオタカの確認状況は、表 6-1.9 及び図 6-1.3 に示すとおりである。

① []

平成 29 年、 [] と考えられる個体は、8 月を除く調査月に確認された。最も多く確認されたのは 4 月の 15 回であり、最も少なかったのは 8 月の確認なしであった。合計の確認回数は 62 回であった。確認範囲は、繁殖した N15 を中心に、北は []、東は []、南は []、西は [] の範囲であった。 [] の幼鳥と考えられる個体は、巣 N15 の周辺で 7 月と 8 月に確認された。

平成 30 年、 [] と考えられる個体は、全ての調査月に確認された。最も多く確認されたのは 4 月の 19 回であり、最も少なかったのは 1 月と 8 月の 2 回であった。合計の確認回数は 64 回であった。確認範囲は、繁殖した N15 を中心に、北は []、東は []、南は []、西は [] の範囲であった。 [] は平成 30 年の繁殖に失敗したため、幼鳥の出現はなかった。

② []

[] と考えられる個体の出現は確認されなかった。

③ []

平成 29 年、 [] と考えられる個体は、2 月と 3 月に各 1 回確認された。確認範囲は、 [] であった。

平成 30 年、 [] と考えられる個体は、3 月に 1 回、4 月に 2 回確認された。確認範囲は、 [] であった。

表 6-1.9 (1/2) オオタカの出現状況 (平成 29 年)

種名	対象 つがひ	出現状況 (平成29年確認回数)								
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
オオタカ	■■■■■	1	8	3	15	8	13	14 (8)	(12)	62 (20)
	■■■■■									0
	■■■■■		1	1						2
	■■■■■		2						1	3

行動圏調査における確認回数の合計を示した。()は、各つがひの巣立ち後の幼鳥の確認回数を示す。

表 6-1.9 (2/2) オオタカの出現状況 (平成 30 年)

種名	対象 つがひ	出現状況 (平成30年確認回数)								
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
オオタカ	■■■■■	2	10	7	19	11	9	4	2	64
	■■■■■									0
	■■■■■			1	2					3
	■■■■■	1			4					5

行動圏調査における確認回数の合計を示した。

貴重種保護の目的から確認位置等については公表しないこととしております。

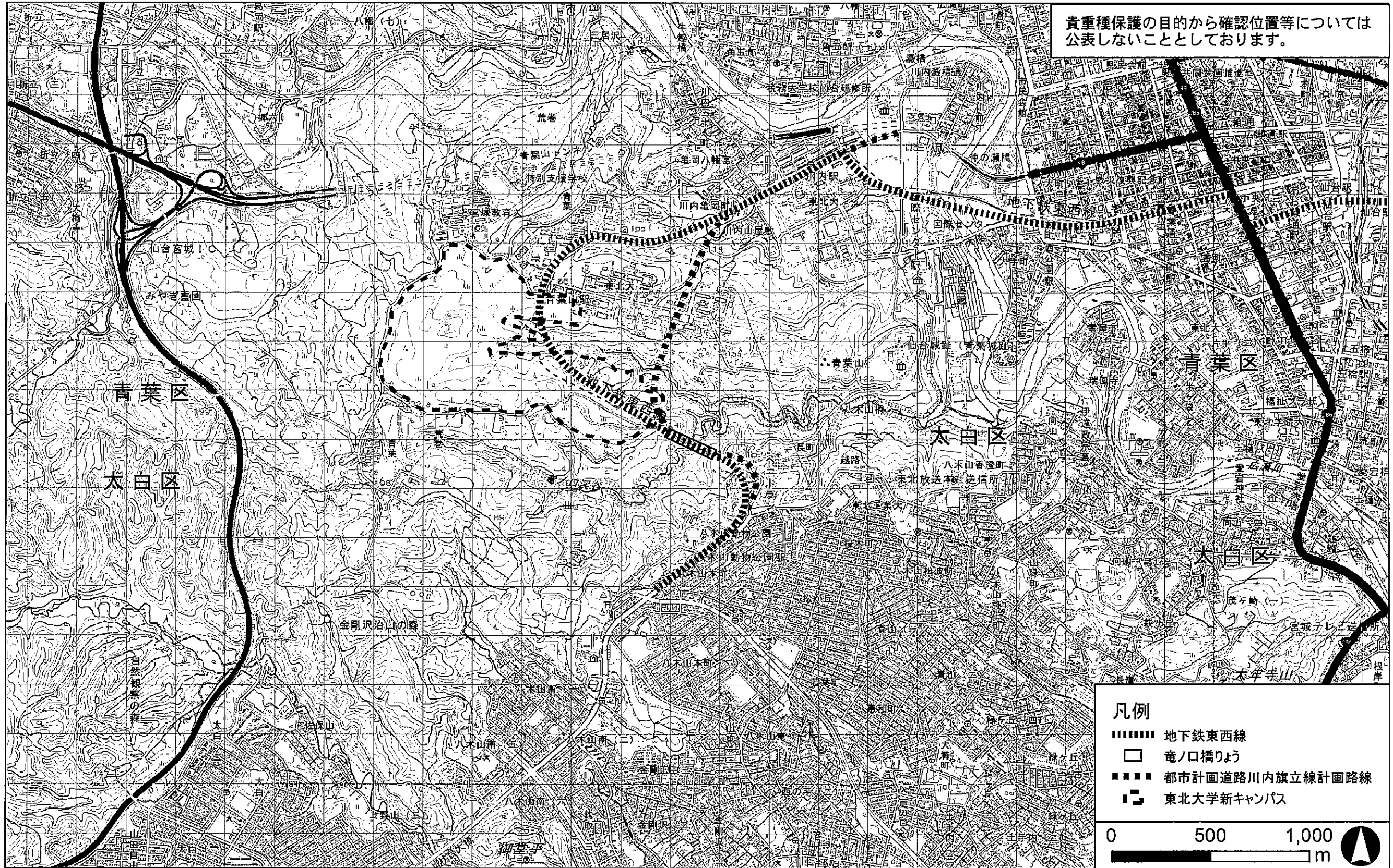
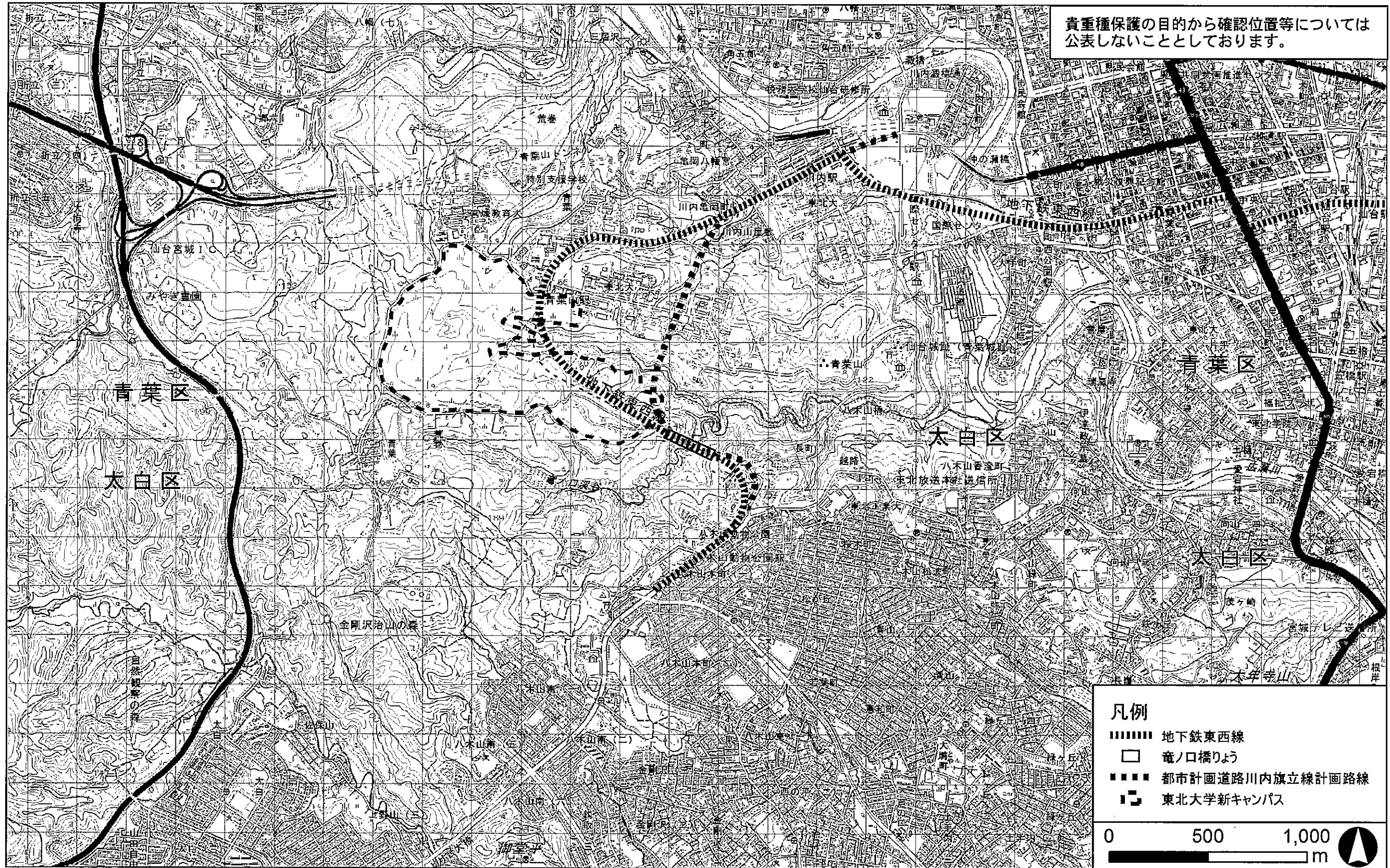


図 6-1. 3 (1/2) オオタカの確認状況 (繁殖期:平成 29 年 1~8 月)



貴重種保護の目的から確認位置等については公表しないこととしております。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 25000 を複製したものである。(承認番号 平 30 情複、第 948 号)

図 6-1.3 (2/2) オオタカの確認状況 (繁殖期:平成 30 年 1~8 月)

(2) 行動圏解析結果

の繁殖期の行動圏解析結果は、表 6-1.10、図 6-1.4 に示すとおりである。なお、は出現が無かったことから、行動圏解析を行うことができなかった。

平成 29 年、の行動圏の範囲は、繁殖した N15 を中心に、北は、東は、南は、西はの範囲であり、最大行動圏面積は約 763ha、95%行動圏は約 675ha であった。また、高利用域の範囲は、範囲であり、面積は約 88ha であった。営巣中心域は幼鳥の行動が確認された N15 近辺の 7 メッシュ、面積は約 44ha であった。

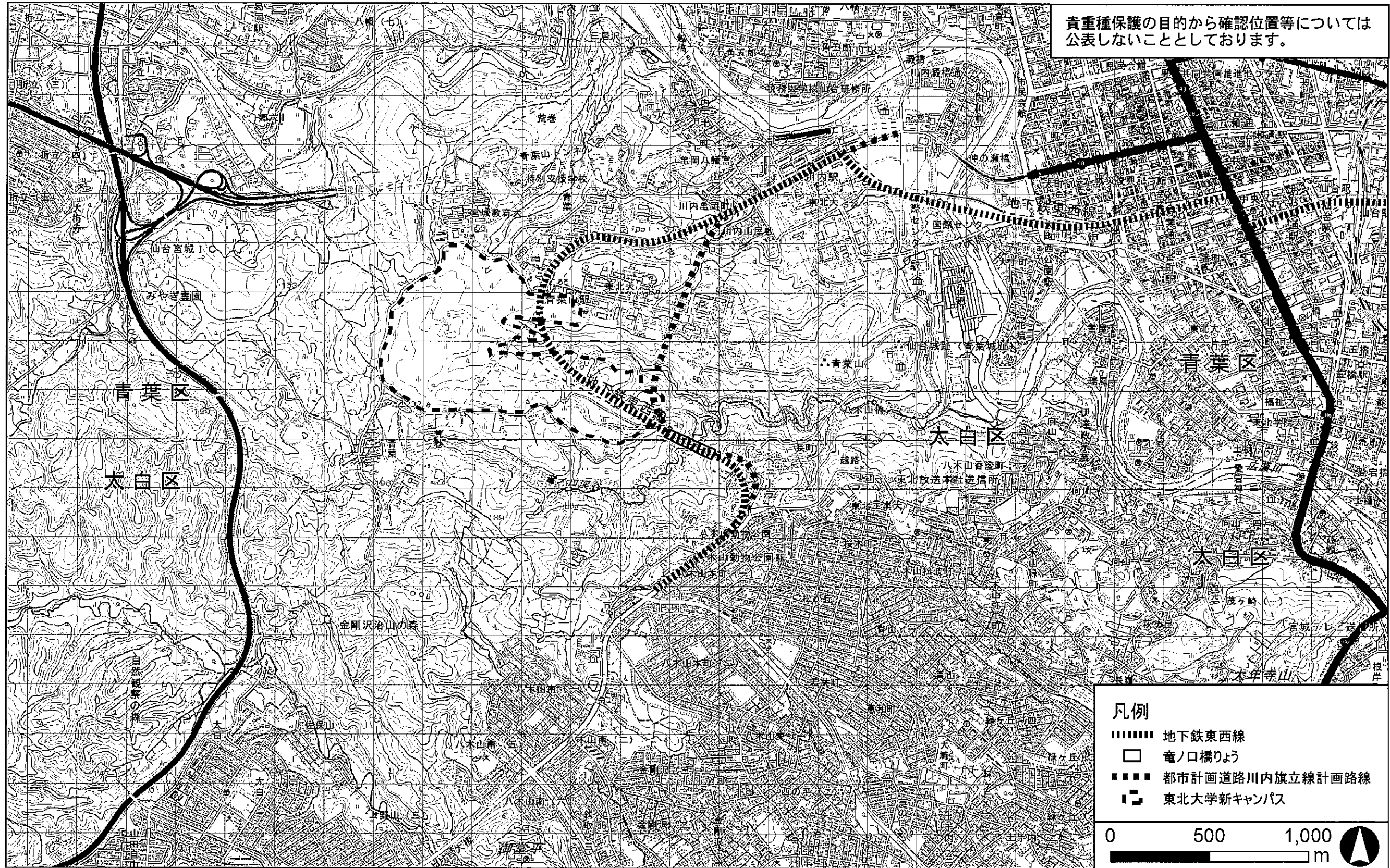
平成 30 年、の行動圏の範囲は、繁殖した N15 を中心に、北は、東は、南は、西はの範囲であり、最大行動圏面積は約 581ha、95%行動圏は約 525ha であった。また、高利用域の範囲は、範囲であり、面積は約 88ha であった。は今年繁殖に失敗し、幼鳥の行動が確認できなかったことから、交尾行動や防衛行動が確認された範囲を営巣中心域として抽出した。営巣中心域は N15 近辺の 4 メッシュ、面積は約 25ha であった。

表 6-1.10 (1/2) オオタカの行動圏解析結果 (平成 29 年 1~8 月)

		最大行動圏	95%行動圏	高利用域	営巣中心域
	メッシュ数	122	108	14	7
	面積 (ha)	762.50	675.00	87.50	43.75

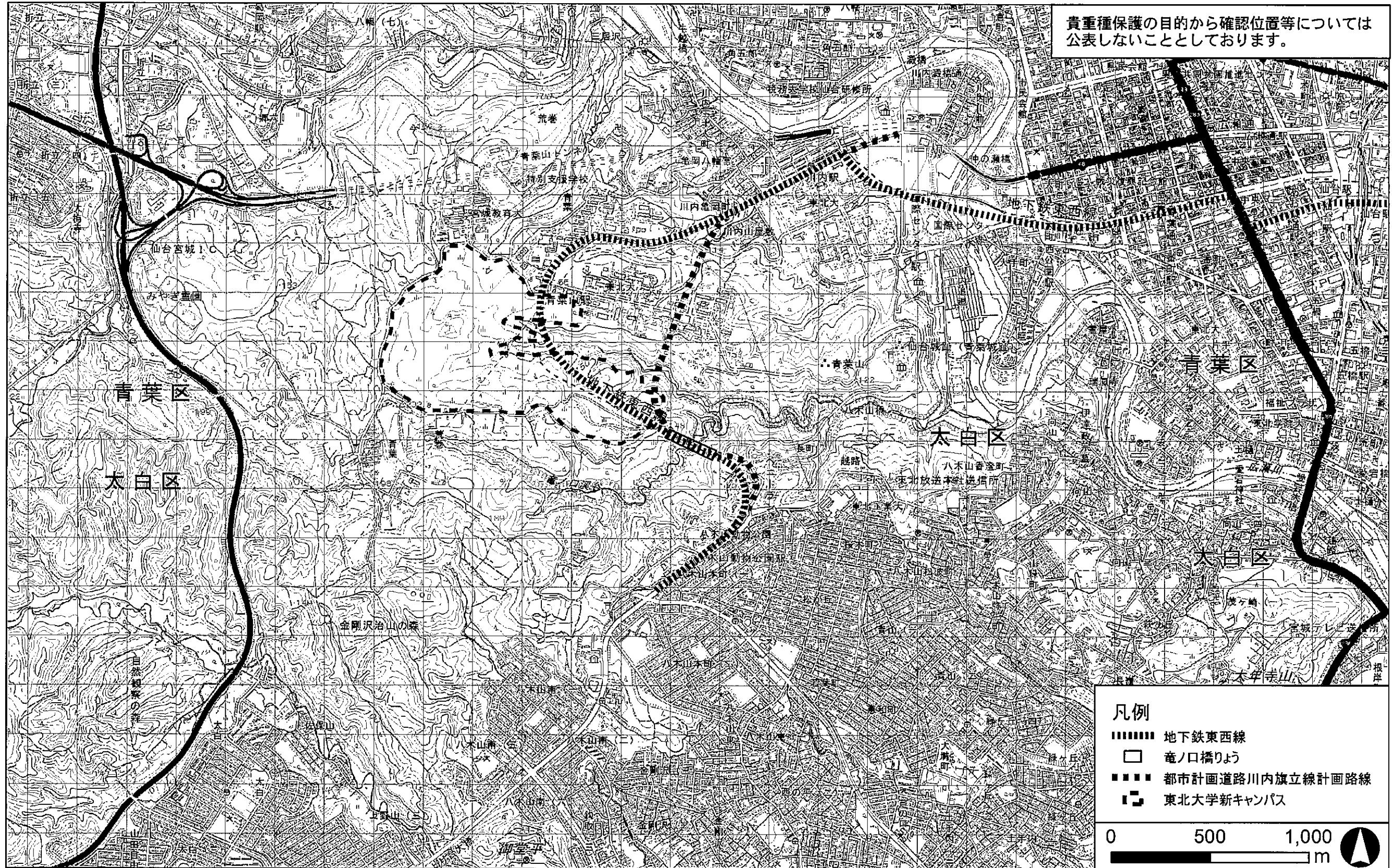
表 6-1.10 (2/2) オオタカの行動圏解析結果 (平成 30 年 1~8 月)

		最大行動圏	95%行動圏	高利用域	営巣中心域
	メッシュ数	93	84	14	4
	面積 (ha)	581.25	525.00	87.5	25.00



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 25000 を複製したものである。(承認番号 平 30 情複、第 948 号)

図 6-1.4 (1/2) オオタカ [] の行動圏解析結果 (繁殖期:平成 29 年 1~8 月)



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 25000 を複製したものである。(承認番号 平 30 情複、第 948 号)

図 6-1.4 (2/2) オオタカ [] の行動圏解析結果 (繁殖期:平成 30 年 1~8 月)

(3) 過年度調査結果との比較 ()

の行動圏解析結果について、過年度との比較を行った。比較結果は、表 6-1.11 及び図 6-1.5 に示すとおりである。

平成 21 年以前と平成 22 年以降を比較すると、 の最大行動圏、95%行動圏、高利用域は縮小しているように見受けられる。 が調査地域に定着して繁殖を行ったのが平成 22 年から平成 26 年であることから、この変化は の存在の有無と関係があるものと考えられる。その後、平成 27 年は が繁殖せず、同年の 7 月以降、 は確認されなくなった。このためか、平成 28 年以降、高利用域が N15 北東の に広がっている。

なお、 は、いずれの年も の高利用域に含まれている。

表 6-1.11 の行動圏解析結果比較 (繁殖期:1~8 月)

		最大 行動圏	95% 行動圏	高利用域	営巢 中心域
平成 18 年	メッシュ数	168	133	36	2
	面積 (ha)	1050.00	831.25	225.00	12.50
平成 19 年	メッシュ数	134	104	29	3
	面積 (ha)	837.50	650.00	181.25	18.75
平成 20 年	メッシュ数	125	81	22	3
	面積 (ha)	781.25	506.25	137.50	18.75
平成 21 年	メッシュ数	137	87	30	2
	面積 (ha)	856.25	543.75	187.50	12.50
平成 22 年	メッシュ数	88	75	19	2
	面積 (ha)	550.00	468.75	118.75	12.50
平成 23 年	メッシュ数	73	61	17	—
	面積 (ha)	456.25	381.25	106.25	—
平成 24 年	メッシュ数	110	75	14	5
	面積 (ha)	687.50	468.75	87.50	31.25
平成 25 年	メッシュ数	81	62	14	1
	面積 (ha)	506.25	387.50	87.50	6.25
平成 26 年	メッシュ数	59	37	7	3
	面積 (ha)	368.75	231.25	43.75	18.75
平成 27 年	メッシュ数	104	78	14	2
	面積 (ha)	650.00	487.50	87.50	12.50
平成 28 年	メッシュ数	55	52	20	9
	面積 (ha)	343.75	325.00	125.00	56.25
平成 29 年	メッシュ数	122	108	14	7
	面積 (ha)	762.50	675.00	87.50	43.75
平成 30 年	メッシュ数	93	84	14	4
	面積 (ha)	581.25	525.00	87.5	25.00

※平成 18、19 年の解析には 以外の個体の記録が含まれている。
平成 21 年~25 年(ピンク)は の工事中、平成 28 年以降(水色)は開業後に行われた調査である。

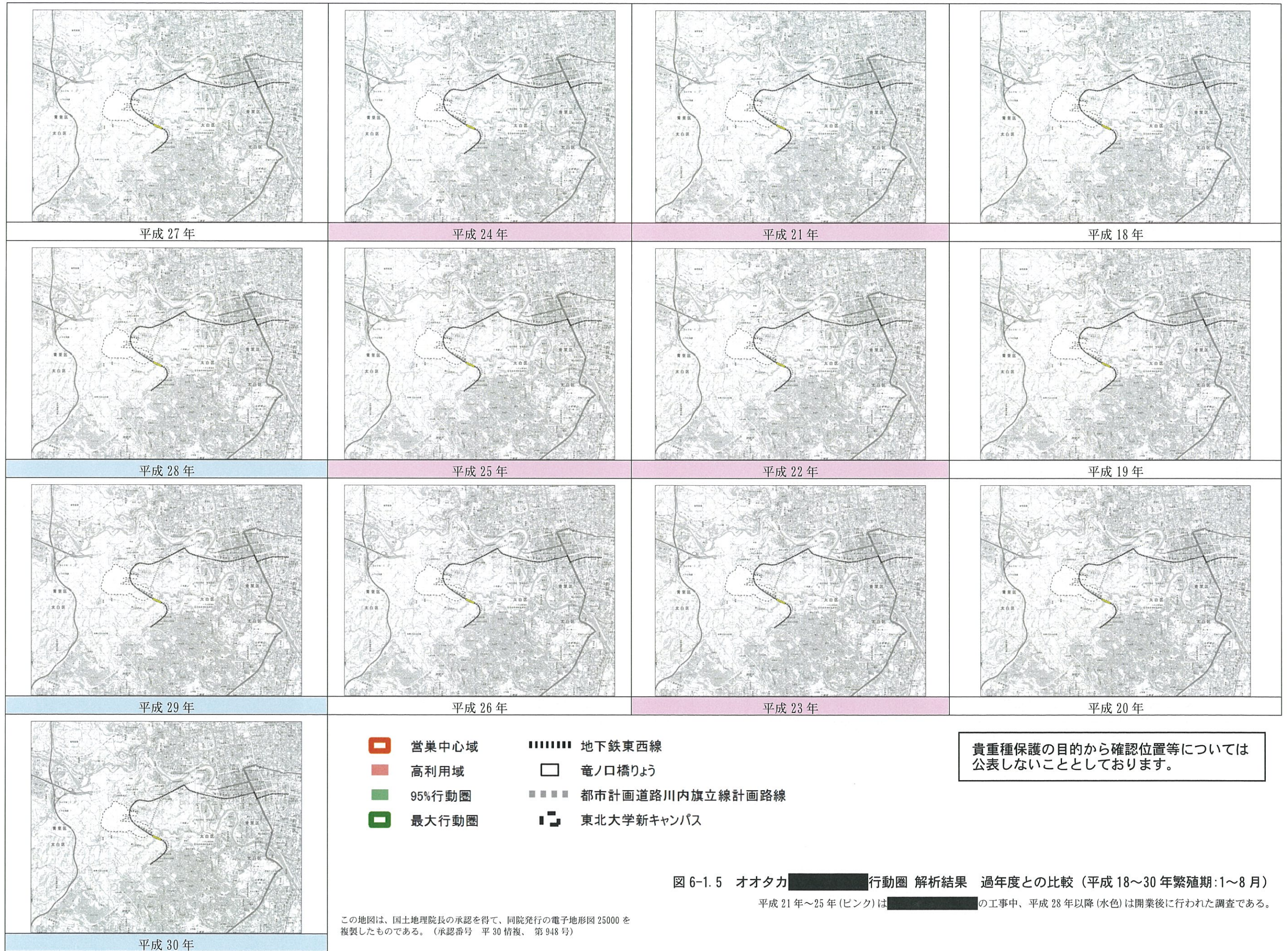


図 6-1.5 オオタカ 行動圏 解析結果 過年度との比較 (平成 18~30 年繁殖期:1~8 月)

平成 21 年~25 年(ピンク)は の工事中、平成 28 年以降(水色)は開業後に行われた調査である。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 25000 を複製したものである。(承認番号 平 30 情複、第 948 号)

(4) 採餌状況

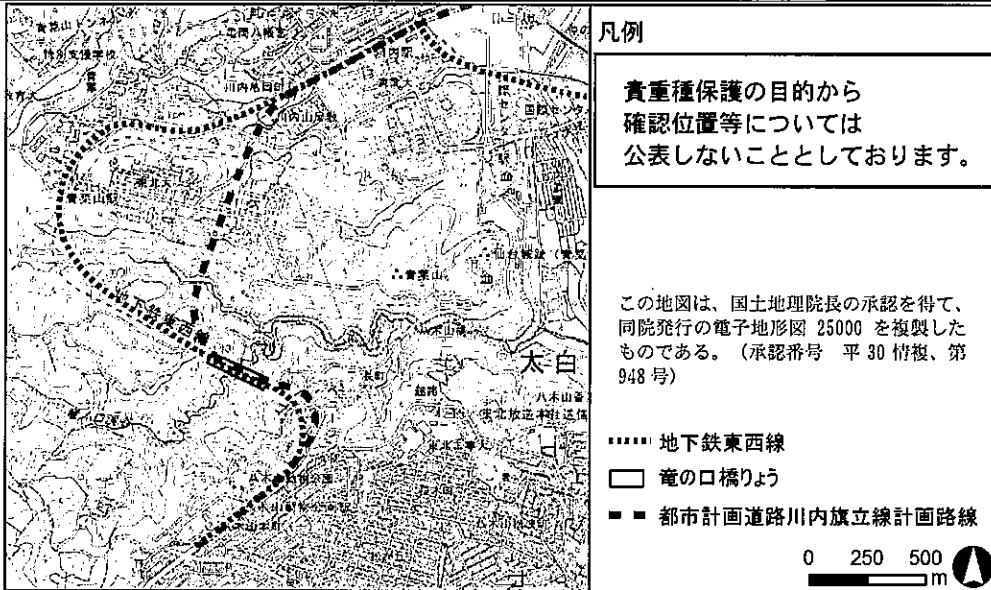
定点調査で確認したオオタカの採餌に関連する行動は、表 6-1.12、図 6-1.6 に示すとおりである。

平成 29 年、採餌行動の確認は 6 月が多く、とまり中の採餌が多かった。確認位置は、N15 周辺が多かった。

平成 30 年、採餌行動はほとんどの月に確認され、とまり中の採餌が多かった。確認位置は、N15 周辺が多かった。[redacted]でも採餌行動が確認されている。

表 6-1.12 (1/2) オオタカの採餌行動確認状況 (平成 29 年 1~8 月)

No.	確認番号	確認日	対象	つがい
1	7	平成29年2月16日	種不明	
2	16	平成29年3月13日	種不明	
3	21	平成29年4月12日	種不明	
4	26	平成29年4月14日	種不明	
5	45	平成29年6月8日	種不明	
6	46	平成29年6月8日	ハシブトガラス	
7	48	平成29年6月8日	種不明	
8	50	平成29年6月9日	種不明	
9	51	平成29年6月9日	種不明	
10	52	平成29年6月9日	種不明	
11	59	平成29年7月5日	種不明	
12	60	平成29年7月6日	種不明	
13	66	平成29年7月6日	種不明	
14	75	平成29年8月3日	種不明	
15	76	平成29年8月3日	種不明	
16	78	平成29年8月3日	種不明	
17	81	平成29年8月3日	種不明	
18	86	平成29年8月4日	ヒヨドリ	

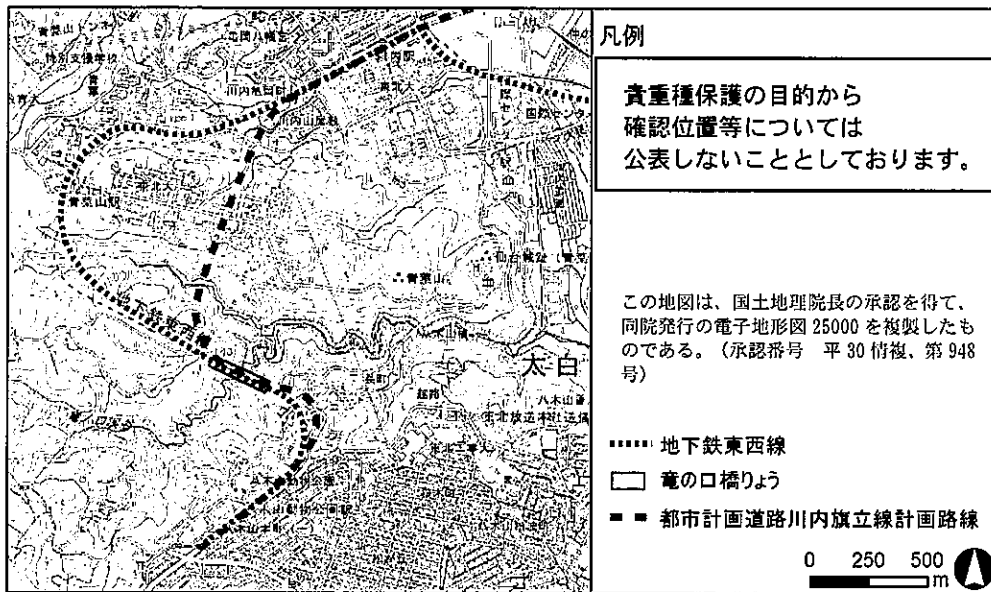


※図中の番号は表 6-1.12 (1/2) の確認番号に対応する。

図 6-1.6 (1/2) オオタカの採餌関連行動確認位置 (平成 29 年 1~8 月)

表 6-1. 12 (2/2) オオタカの採餌行動確認状況 (平成 30 年 1~8 月)

No.	確認番号	確認日	対象	つがい
1	4	平成 30 年 2 月 14 日	種不明	
2	14	平成 30 年 3 月 12 日	種不明	
3	20	平成 30 年 3 月 13 日	種不明	
4	26	平成 30 年 4 月 11 日	種不明	
5	44	平成 30 年 4 月 13 日	種不明	
6	51	平成 30 年 5 月 7 日	種不明	
7	70	平成 30 年 7 月 6 日	種不明	
8	71	平成 30 年 8 月 2 日	種不明	



※図中の番号は表 6-1. 12 (2/2) の確認番号に対応する。

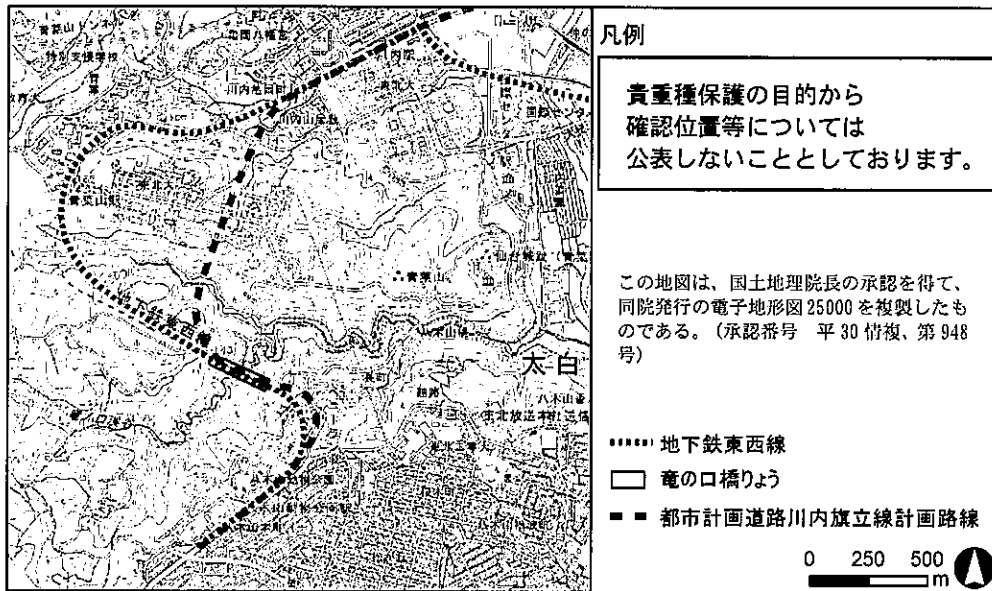
図 6-1. 6 (2/2) オオタカの採餌関連行動確認位置 (平成 30 年 1~8 月)

(5) [redacted]との関連

[redacted]における [redacted]の飛行状況は、表 6-1.13 及び図 6-1.7 に示すとおりであり、平成 29 年、平成 30 年ともに [redacted]を忌避するような行動は見られなかった。

表 6-1.13 (1/2) [redacted]における出現状況 (平成 29 年 1 月～8 月)

番号	確認番号	期日	確認開始時間	確認終了時間	[redacted]との位置関係	行動の内容
1	33	平成 29 年 5 月 10 日	14:08	14:09	[redacted]	[redacted]
2	56	平成 29 年 7 月 5 日	10:45	10:50	[redacted]	[redacted]

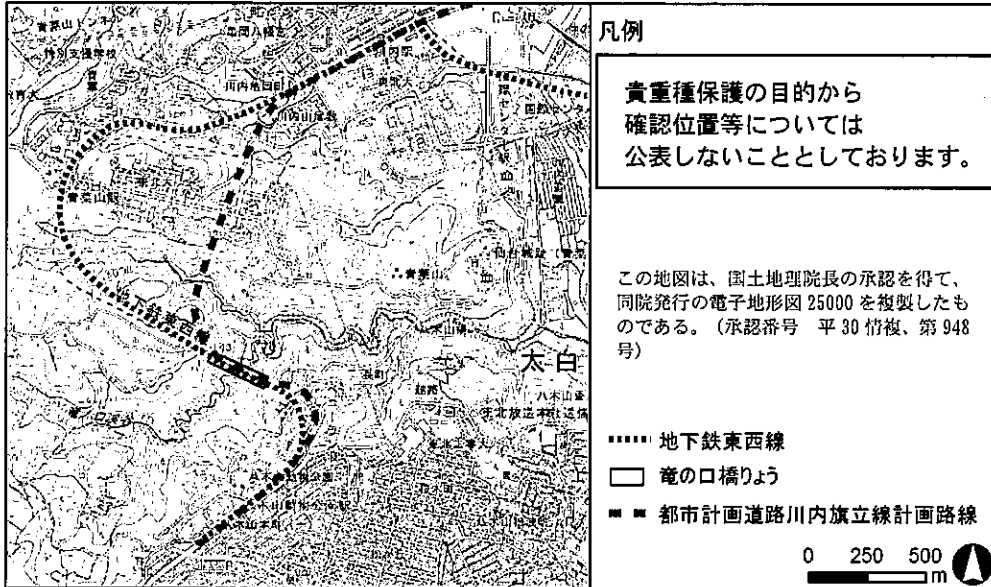


※数字は表 6-1.13 (1/2) の確認番号に対応。

図 6-1.7 (1/2) [redacted]における出現位置 (平成 29 年 1 月～8 月)

表 6-1. 13 (2/2) [redacted] における出現状況 (平成 30 年 1 月～8 月)

番号	確認番号	期日	確認開始時間	確認終了時間	[redacted] どの位置関係	行動の内容
1	20	平成 30 年 3 月 13 日	12:31	15:34	[redacted]	[redacted]
2	6f	平成 30 年 6 月 6 日	12:38	12:39	[redacted]	[redacted]



※数字は表 6-1. 13 (2/2) の確認番号に対応。

図 6-1. 7 (2/2) [redacted] における出現位置 (平成 30 年 1 月～8 月)

2) ハヤブサ

(1) 確認状況

ハヤブサの確認状況は、表 6-1. 14 及び図 6-1. 8 に示すとおりである。

①

平成 29 年、XXXXXXXXXXと考えられる個体は調査期間を通じて確認され、最も多く確認されたのは 2 月の 30 回であり、最も少なかったのは 8 月の 3 回であった。合計の確認回数は 97 回であった。確認範囲は、繁殖した Nh2 を中心に、北はXXXXXXXXXX、東はXXXXXXXXXX、南はXXXXXXXXXX、西はXXXXXXXXXXの範囲であった。XXXXXXXXXXの幼鳥と考えられる個体は、巣穴 Nh2 付近を中心にXXXXXXXXXXで 7 月に 18 回確認された。

平成 30 年、XXXXXXXXXXと考えられる個体は調査期間を通じて確認され、最も多く確認されたのは 3 月の 17 回であり、最も少なかったのは 8 月の 2 回であった。合計の確認回数は 90 回であった。確認範囲は、繁殖した巣穴 Nh2 を中心に、北はXXXXXXXXXX、東はXXXXXXXXXX、南はXXXXXXXXXX、西はXXXXXXXXXXの範囲であった。XXXXXXXXXXの幼鳥と考えられる個体は、巣穴 Nh2 付近を中心に広範囲を飛翔する様子が確認され、6 月に 11 回、7 月に 32 回確認された。

②

平成 29 年、XXXXXXXXXXと考えられる個体は、5 月・6 月・8 月を除く調査月に確認された。合計の確認回数は 13 回であった。

平成 30 年、XXXXXXXXXXと考えられる個体は、1 月から 6 月に確認された。合計の確認回数は 13 回であった。繁殖した巣穴 Nh1 からXXXXXXXXXXが主な確認範囲であった。

表 6-1. 14 (1/2) ハヤブサの出現状況 (平成 29 年)

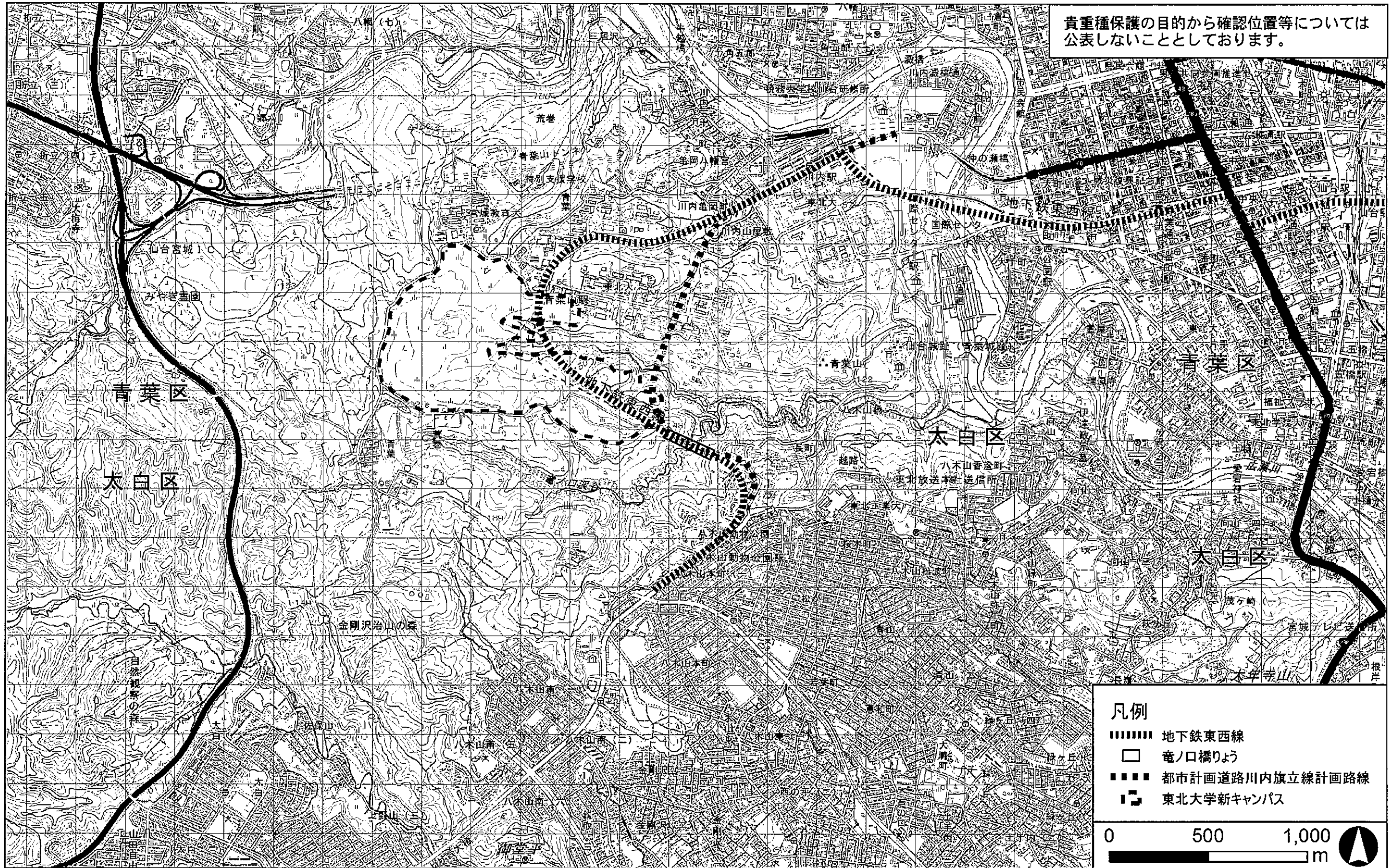
種名	対象 つがい	出現状況 (平成29年確認回数)								
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
ハヤブサ	■■■■■	11	30	8	5	13	12	15 (18)	3	97 (18)
	■■■■■	7	1	1	2			2		13
	■■■■■	6	2	1	1				1	11

行動圏調査における確認回数の合計を示した。()は、各つがいの巣立ち後の幼鳥の確認回数を示す。

表 6-1. 14 (2/2) ハヤブサの出現状況 (平成 30 年)

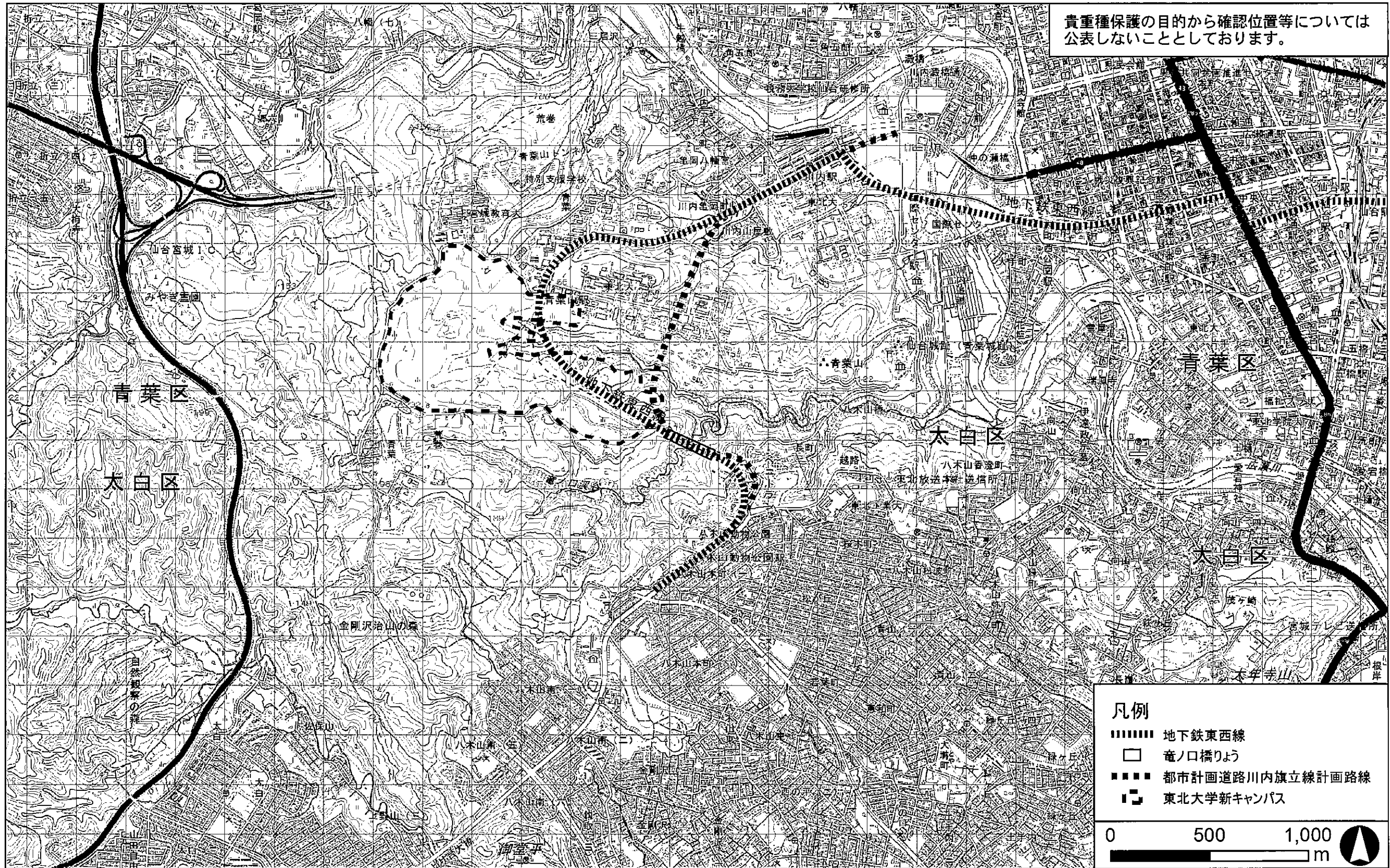
種名	対象 つがい	出現状況 (平成28年確認回数)								
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
ハヤブサ	■■■■■	16	16	17	6	13	11 (11)	9 (32)	2	90 (43)
	■■■■■	2	9	5	3	1	5			13
	■■■■■	1	2	2	2			1		11

行動圏調査における確認回数の合計を示した。()は、各つがいの巣立ち後の幼鳥の確認回数を示す。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 25000 を複製したものである。(承認番号 平 30 情保、第 948 号)

図 6-1. 8 (1/2) ハヤブサの確認状況 (繁殖期:平成 29 年 1~8 月)



貴重種保護の目的から確認位置等については公表しないこととしております。

凡例

- 地下鉄東西線
- 電ノ口橋りょう
- 都市計画道路川内旗立線計画路線
- 東北大学新キャンパス

0 500 1,000 m

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 25000 を複製したものである。(承認番号 平 30 情複、第 948 号)

図 6-1.8 (2/2) ハヤブサの確認状況 (繁殖期:平成 30 年 1~8 月)

(2) 行動圏解析結果

の行動圏解析結果は、表 6-1. 15、図 6-1. 9 に示すとおりである。

平成 29 年、の行動圏の範囲は、繁殖した Nh2 を中心に、北は、東は、南は、西はの範囲であり、最大行動圏面積は約 1438ha、95%行動圏は約 1306ha であった。また、高利用域の範囲は、に囲まれる範囲であり、面積は約 300ha であった。7 月の時点で幼鳥が広域を飛び回っていたことから、幼鳥のとまりが確認されたメッシュを営巣中心域として抽出した。営巣中心域は、巣穴 Nh2 周辺の 6 メッシュ、面積は約 38ha であった。

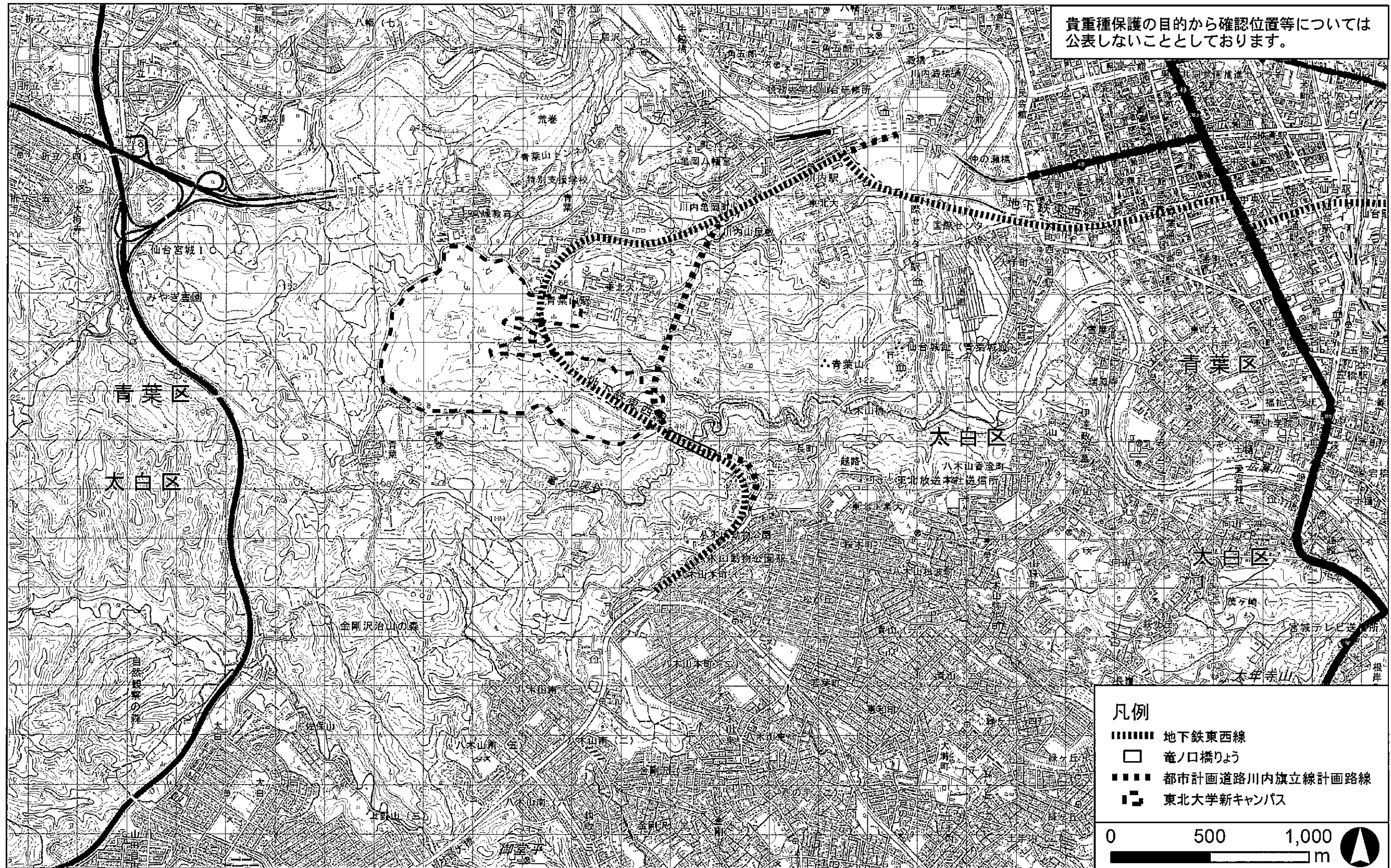
平成 30 年、の行動圏の範囲は、繁殖した Nh2 を中心に、北は、東は、南は、西はの範囲であり、最大行動圏面積は約 1544ha、95%行動圏は約 1419ha であった。また、高利用域の範囲は、に囲まれる範囲であり、面積は約 131ha であった。6 月の時点で幼鳥が広域を飛び回っていたことから、幼鳥のとまりが確認されたメッシュを営巣中心域として抽出した。営巣中心域は、巣穴 Nh2 周辺の 6 メッシュ、面積は約 38ha であった。

表 6-1. 15 (1/2) ハヤブサの行動圏解析結果 (平成 29 年 1~8 月)

		最大 行動圏	95% 行動圏	高利用域	営巣 中心域
	メッシュ数	230	209	48	6
	面積 (ha)	1437.50	1306.25	300.00	37.50

表 6-1. 15 (2/2) ハヤブサの行動圏解析結果 (平成 30 年 1~8 月)

		最大 行動圏	95% 行動圏	高利用域	営巣 中心域
	メッシュ数	247	227	21	6
	面積 (ha)	1543.75	1418.75	131.25	37.50



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 25000 を複製したものである。(承認番号 平 30 情複、第 948 号)

図 6-1.9 (2/2) ハヤブサ八木山橋つがいの行動圏解析結果 (繁殖期:平成 30 年 1~8 月)

(3) 過年度調査結果との比較 ()

の行動圏解析結果について、過年度との比較を行った。比較結果は、表 6-1. 16 及び図 6-1. 10 に示すとおりである。

の行動圏、高利用域は、年によって変動が見られるが、毎年繁殖に利用している Nh2、Nh2' がある に営巣中心域があり、これを中心とした行動圏となっている。なお、高利用域の範囲は、いずれの年も を包含あるいは隣接するかたちで広がっている。

表 6-1. 16 の行動圏解析結果比較 (繁殖期:1~8月)

		最大 行動圏	95% 行動圏	高利用域	営巣 中心域
平成 19 年	メッシュ数	81	62	17	3
	面積 (ha)	506.25	387.50	106.25	18.75
平成 20 年	メッシュ数	128	101	23	3
	面積 (ha)	800.00	631.25	143.75	18.75
平成 21 年	メッシュ数	166	94	24	—
	面積 (ha)	1037.5	587.5	150	—
平成 22 年	メッシュ数	131	82	15	—
	面積 (ha)	818.75	512.50	93.75	—
平成 23 年	メッシュ数	211	134	36	—
	面積 (ha)	1318.75	837.50	225.00	—
平成 24 年	メッシュ数	83	64	19	—
	面積 (ha)	518.75	400.00	118.75	—
平成 25 年	メッシュ数	138	99	18	3
	面積 (ha)	862.50	618.75	112.50	18.75
平成 26 年	メッシュ数	98	77	18	2
	面積 (ha)	612.50	481.25	112.50	12.50
平成 27 年	メッシュ数	123	91	30	1
	面積 (ha)	768.75	568.75	187.5	6.25
平成 28 年	メッシュ数	148	139	59	3
	面積 (ha)	925.00	868.75	368.75	18.75
平成 29 年	メッシュ数	230	209	48	6
	面積 (ha)	1437.50	1306.25	300.00	37.50
平成 30 年	メッシュ数	247	227	21	6
	面積 (ha)	1543.75	1418.75	131.25	37.50

※平成 18 年はハヤブサの行動圏解析を行っていない。

平成 19 年の解析には 以外の個体の記録が含まれている。

平成 21 年~25 年 (ピンク) は の工事中、平成 28 年以降 (水色) は開業後に行われた調査である。

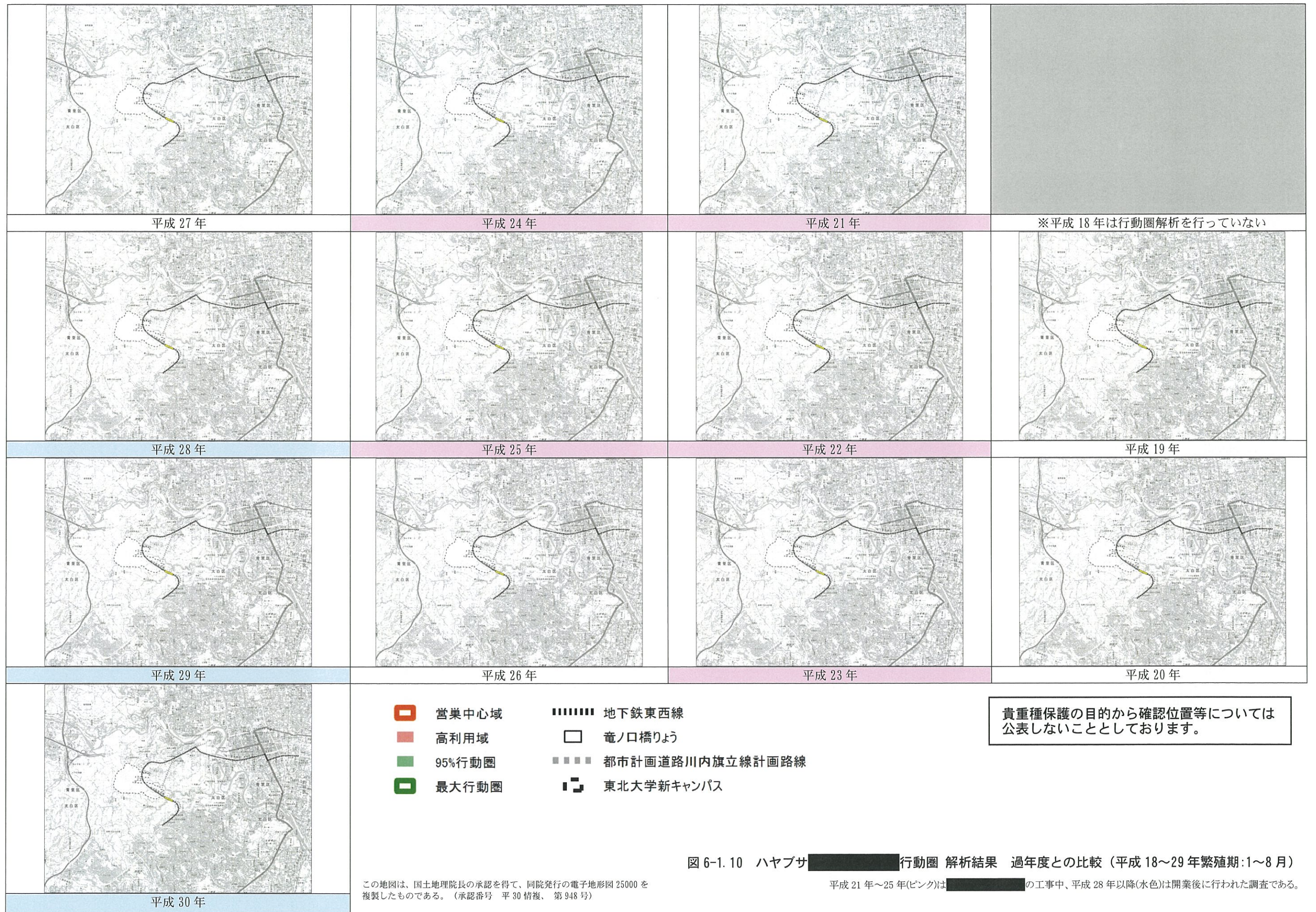


図 6-1.10 ハヤブサ 行動圏 解析結果 過年度との比較 (平成 18~29 年繁殖期:1~8 月)

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図 25000 を複製したものである。(承認番号 平 30 情複、第 948 号)

平成 21 年~25 年(ピンク)は の工事中、平成 28 年以降(水色)は開業後に行われた調査である。

(4) 採餌状況

ハヤブサの採餌に関連する行動は、表 6-1. 17、図 6-1. 11 に示すとおりである。

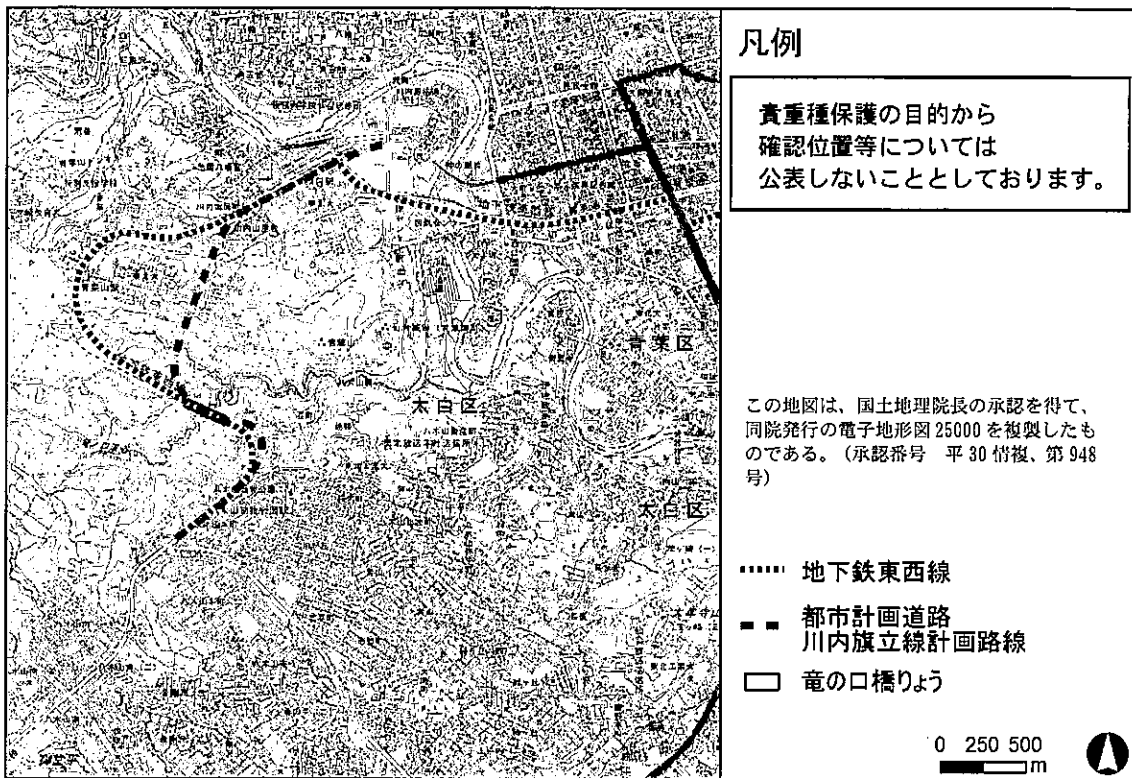
平成 29 年、採餌行動は毎月確認され、採餌行動の他、カワラバト（ドバト）やムクドリなどの鳥類を捕らえようとする行動が確認された。

平成 30 年、採餌行動はほとんどの月に確認され、採餌行動の他、カワラバト（ドバト）やツバメ類などの鳥類を捕らえようとする行動が確認された。

でも採餌行動が確認されている。

表 6-1. 17 (1/2) ハヤブサの採餌行動確認状況（平成 29 年 1 月～8 月）

No.	確認番号	確認日	対象	うがい
1	2	平成 29 年 1 月 30 日	種不明	
2	4	平成 29 年 1 月 30 日	カワラバト（ドバト）	
3	17	平成 29 年 1 月 31 日	種不明	
4	29	平成 29 年 2 月 15 日	種不明	
5	37	平成 29 年 2 月 16 日	種不明	
6	46	平成 29 年 2 月 17 日	種不明	
7	48	平成 29 年 2 月 17 日	種不明	
8	53	平成 29 年 2 月 17 日	ムクドリ	
9	58	平成 29 年 3 月 13 日	小型鳥類	
10	59	平成 29 年 3 月 13 日	種不明	
11	60	平成 29 年 3 月 13 日	種不明	
12	62	平成 29 年 3 月 13 日	種不明（鳥類）	
13	65	平成 29 年 3 月 15 日	種不明	
14	68	平成 29 年 4 月 12 日	種不明	
15	70	平成 29 年 4 月 12 日	種不明	
16	71	平成 29 年 4 月 13 日	種不明	
17	72	平成 29 年 4 月 13 日	種不明	
18	74	平成 29 年 4 月 14 日	種不明	
19	75	平成 29 年 4 月 14 日	カワラバト（ドバト）	
20	76	平成 29 年 5 月 10 日	種不明	
21	78	平成 29 年 5 月 10 日	種不明	
22	83	平成 29 年 5 月 10 日	カワラバト（ドバト）	
23	86	平成 29 年 5 月 12 日	小型鳥類	
24	89	平成 29 年 6 月 7 日	種不明	
25	90	平成 29 年 6 月 7 日	種不明	
26	91	平成 29 年 6 月 7 日	種不明	
27	92	平成 29 年 6 月 8 日	種不明	
28	97	平成 29 年 6 月 9 日	種不明	
29	100	平成 29 年 6 月 9 日	種不明	
30	103	平成 29 年 7 月 5 日	小型鳥類	
31	106	平成 29 年 7 月 5 日	種不明	
32	112	平成 29 年 7 月 5 日	種不明	
33	128	平成 29 年 7 月 6 日	カラス類	
34	131	平成 29 年 7 月 7 日	種不明	
35	132	平成 29 年 7 月 7 日	種不明	
36	135	平成 29 年 7 月 7 日	種不明	
37	136	平成 29 年 8 月 3 日	種不明	



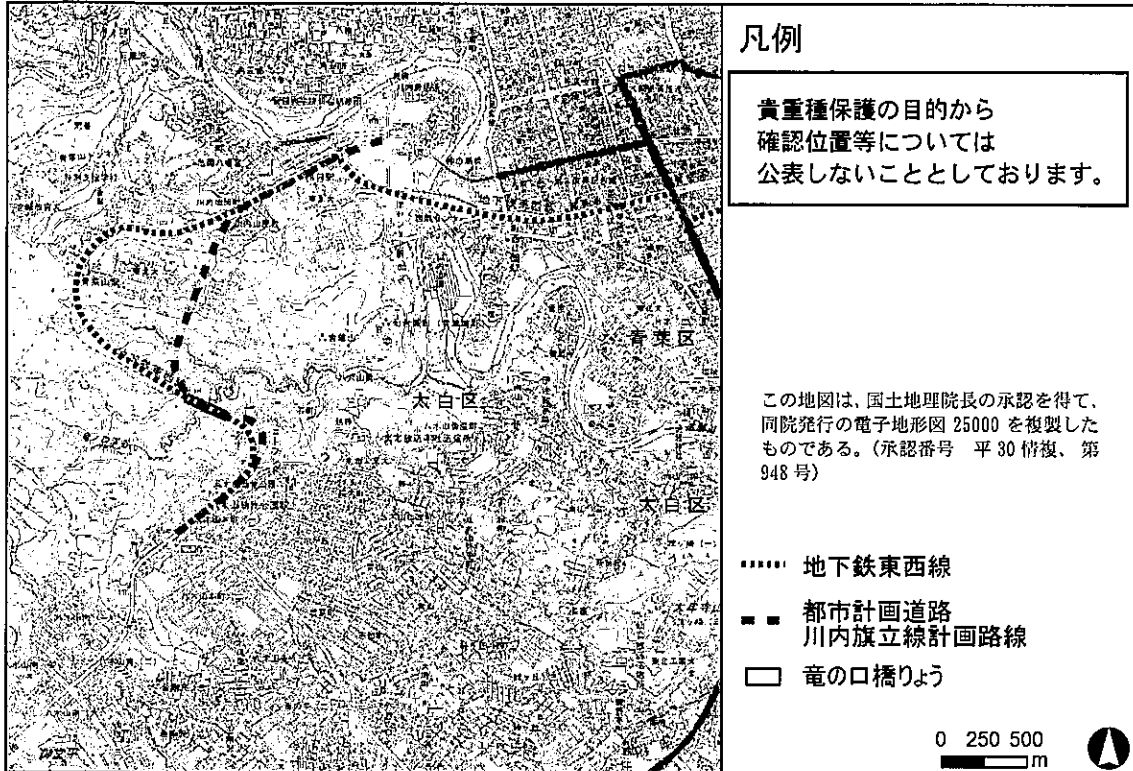
※図中の番号は表 6-1. 17 (1/2) の確認番号に対応する。

図 6-1. 11 (1/2) ハヤブサの採餌関連行動確認位置 (平成 29 年 1 月～8 月)

表 6-1. 17 (2/2) ハヤブサの採餌行動確認状況 (平成 30 年 1 月～8 月)

No.	確認番号	確認日	対象	確認結果
1	1	平成 30 年 1 月 29 日	種不明	
2	2	平成 30 年 1 月 29 日	カワラバト (ドバト)	
3	4	平成 30 年 1 月 29 日	種不明	
4	6	平成 30 年 1 月 29 日	小型鳥類	
5	8	平成 30 年 1 月 29 日	種不明	
6	18	平成 30 年 1 月 30 日	種不明	
7	20	平成 30 年 2 月 14 日	小型鳥類	
8	27	平成 30 年 2 月 14 日	種不明	
9	32	平成 30 年 2 月 15 日	種不明	
10	42	平成 30 年 2 月 16 日	種不明	
11	44	平成 30 年 2 月 16 日	種不明	
12	45	平成 30 年 2 月 16 日	種不明	
13	50	平成 30 年 3 月 12 日	種不明	
14	51	平成 30 年 3 月 13 日	種不明	
15	82	平成 30 年 5 月 7 日	種不明	
16	83	平成 30 年 5 月 7 日	鳥類	
17	85	平成 30 年 5 月 7 日	種不明	
18	94	平成 30 年 5 月 9 日	小型鳥類	
19	101	平成 30 年 6 月 6 日	種不明	
20	105	平成 30 年 6 月 7 日	種不明	
21	118	平成 30 年 6 月 8 日	種不明	
22	119	平成 30 年 6 月 8 日	種不明	
23	123	平成 30 年 7 月 4 日	種不明	

24	125	平成30年7月4日	種不明		
25	144	平成30年7月5日	種不明		
26	156	平成30年7月6日	種不明		
27	161	平成30年7月6日	種不明		
28	164	平成30年7月6日	種不明		
29	165	平成30年8月2日	ツバメ類		



※図中の番号は表 6-1. 17 (2/2) の確認番号に対応する。

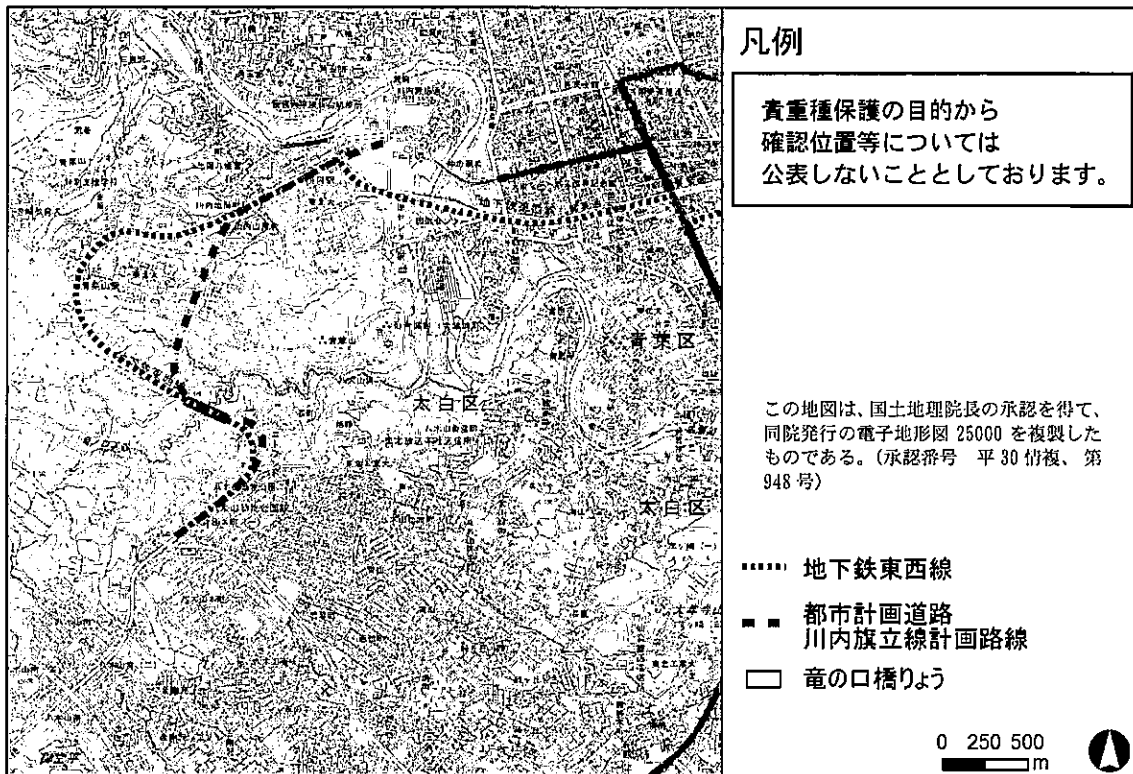
図 6-1. 11 (2/2) ハヤブサの採餌関連行動確認位置 (平成 30 年 1 月～8 月)

(5) [redacted]との関連

[redacted]での [redacted]の出現状況は、表 6-1. 18、図 6-1. 12 に示すとおりであり、平成 29 年、平成 30 年ともに [redacted]を忌避するような行動は見られなかった。

表 6-1. 18 (1/2) [redacted]における出現状況 (平成 29 年 1 月～8 月)

番号	確認番号	期日	確認開始時間	確認終了時間	[redacted]との位置関係	行動の内容
1	9	平成 29 年 1 月 30 日	11:10	11:28	[redacted]	[redacted]
2	18	平成 29 年 1 月 31 日	11:18	11:21	[redacted]	[redacted]
3	25	平成 29 年 2 月 15 日	9:04	9:47	[redacted]	[redacted]
4	30	平成 29 年 2 月 15 日	10:55	10:56	[redacted]	[redacted]

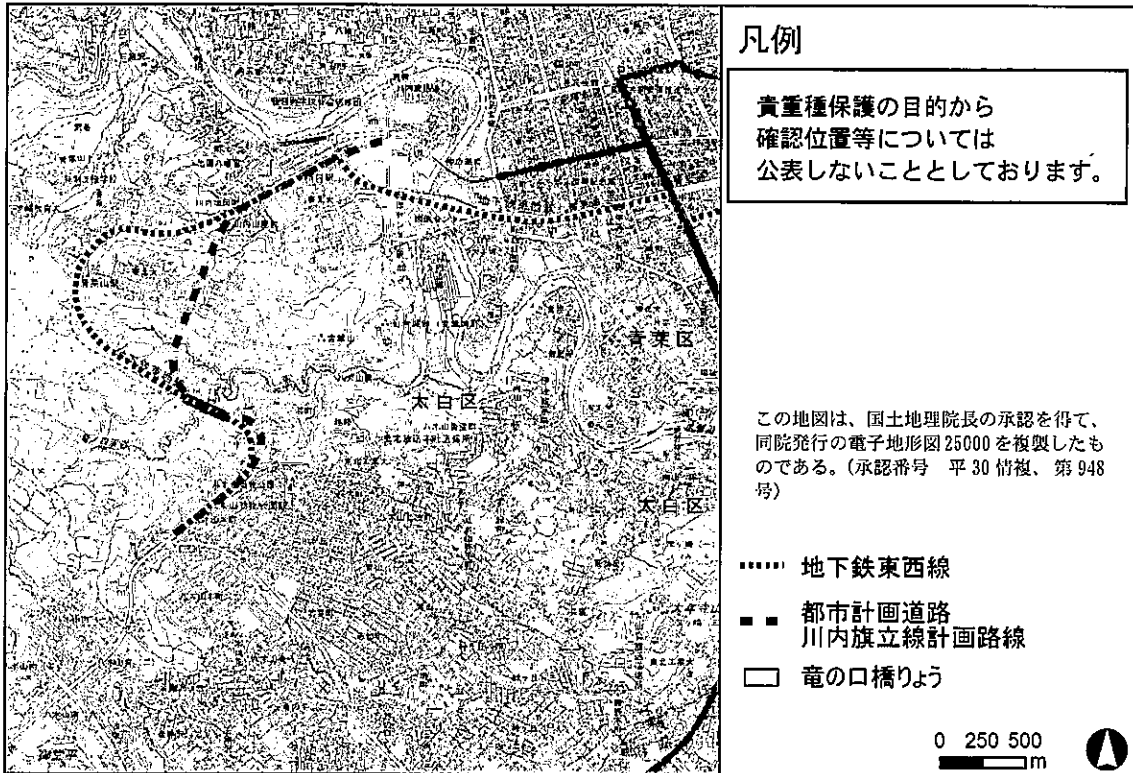


※図中の番号は表 6-1. 18 (1/2) の確認番号に対応する。

図 6-1. 12 (1/2) [redacted]における出現位置 (平成 29 年 1 月～8 月)

表 6-1. 18 (2/2) [redacted] における出現状況 (平成 30 年 1 月～8 月)

番号	確認番号	期日	確認開始時間	確認終了時間	[redacted] どの位置関係	行動の内容
1	36	平成 30 年 2 月 15 日	11:22	11:27	[redacted]	[redacted]
2	38	平成 30 年 2 月 15 日	11:33	11:42	[redacted]	[redacted]
3	115	平成 30 年 6 月 8 日	11:00	11:54	[redacted]	[redacted]
4	116	平成 30 年 6 月 8 日	13:17	13:38	[redacted]	[redacted]



※図中の番号は表 6-1. 18 (2/2) の確認番号に対応する。

図 6-1. 12 (2/2) [redacted] における出現位置 (平成 30 年 1 月～8 月)

6.2 鳥類（猛禽類）営巣確認調査

1) オオタカ

(1) [REDACTED]

[REDACTED]の繁殖状況の詳細は、図 6-1. 13 に示すとおりである。

① 営巣地の確認

平成 29 年の繁殖には、平成 28 年に繁殖したのと同じ N15 が利用された。営巣木ビデオ調査では、4 月に巣への出入り、5 月に抱卵、6 月にヒナ 3 個体を確認した。6 月 5 日の時点ではヒナは綿羽に覆われており、孵化後 10 日程度と推定された。7 月 5 日の時点では巣内にヒナの姿は無く、N15 付近のモミにとまる巣立ち間もない幼鳥 2 個体が確認されたことから、[REDACTED]は繁殖に成功し、少なくとも 2 個体のヒナが巣立ったものと判断した。

平成 30 年の繁殖には、平成 29 年に繁殖したのと同じ N15 が利用された。営巣木ビデオ調査では、4 月に巣への出入り、5 月に抱卵を確認した。しかし、6 月 5 日、6 日の映像ではヒナは確認されなかった。例年、繁殖が順調に進んでいけば、6 月上旬には巣内でヒナが確認されることから、今年の繁殖は失敗した可能性が高いと考えられた。その後の行動圏調査においてもエサ運搬や幼鳥の出現などはなく、場所を変えて繁殖を行ったことを示す事象も確認されなかったことから、今年の繁殖は失敗に終わったものと判断した。なお、6 月 6 日に巣の直下を確認したところ、オオタカの卵殻が落ちているのを確認した。親鳥はヒナが孵化した後に卵殻を巣から離れた場所に捨てに行くため、巣の直下で卵の形状をとどめたような大きな卵殻を発見することはほとんどないが、営巣確認調査において巣の直下で卵の形状を半分とどめた状態の卵殻が確認されたことから、ヒナの孵化前に卵が外敵に襲われたのではないかと推察される。

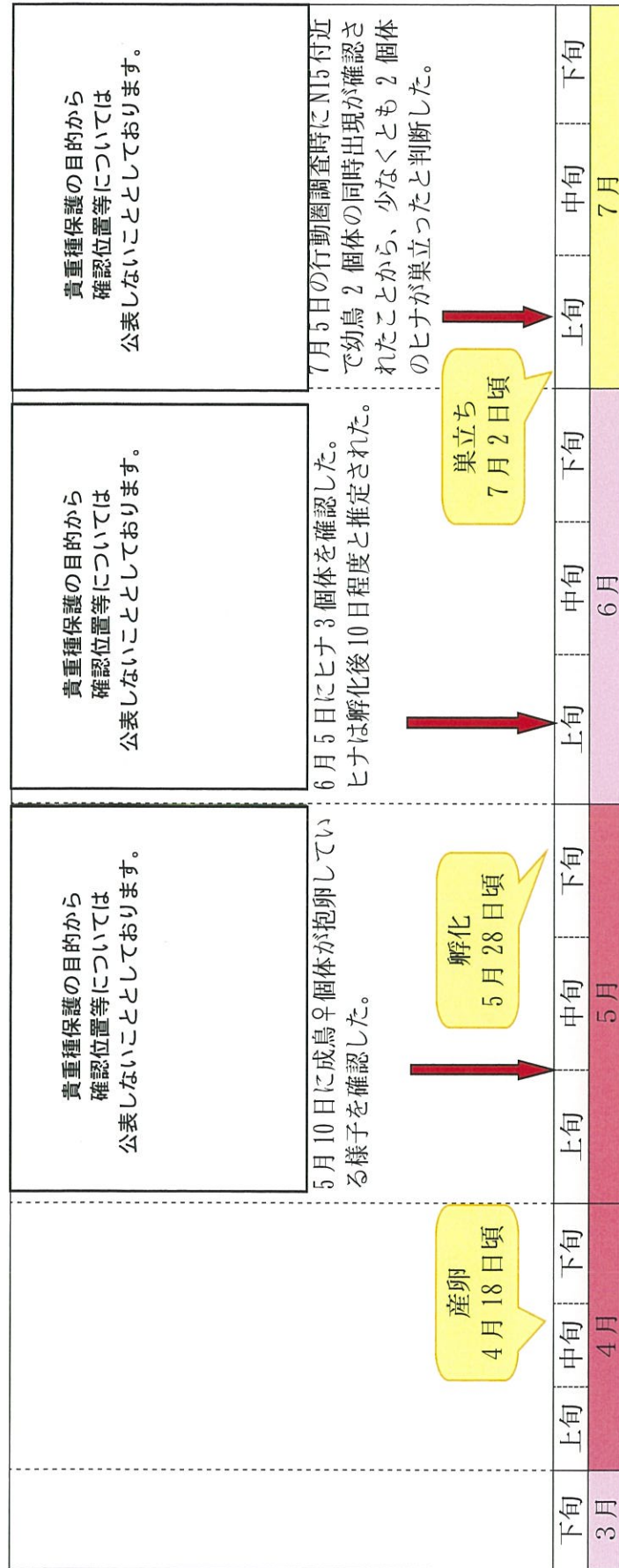


図 6-1. 13 (1/2) オオタカ [] の繁殖状況 (平成 29 年)

※オオタカの抱卵期間は約 40 日、巣立ちは孵化後 35～41 日である。出典：「図鑑日本のワシタカ類」(森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男、平成 7 年)

② 植生・地形の調査結果

巣 N15 の植生・地形の調査結果は、表 6-1. 19、写真 6-1. 1、図 6-1. 14 に示すとおりである。

表 6-1. 19 営巣木調査結果（営巣木 N15）

階層	階層の高さ (m)	平均樹高 (m)	平均胸高直径 (cm)	立木密度 (本/ha)	植被率 (%)	主な構成種 (下線は優占種)
高木層	26	26.7	78.0	300	80	モミ
亜高木層	10	—	—	—	30	オオモミジ、モミ、イヌブナ
低木層	4.5	—	—	—	35	ヤブムラサキ、アワブキ、ウワミスザクラ、ミズキ
草本第1層	1.7	—	—	—	70	スズタケ、ヤブムラサキ、アオキ
草本第2層	0.5	—	—	—	70	ヒメカンスゲ、タガネソウ、ウリハダカエデ、ハリガネワラビ、バйкаツツジ、ミゾシダ

斜面方位：WSW、傾斜：35°

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

N15 周辺の林相 (平成30年9月7日撮影)

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

N15 (平成30年9月7日撮影)

写真 6-1. 1 営巣木調査結果（営巣木 N15）

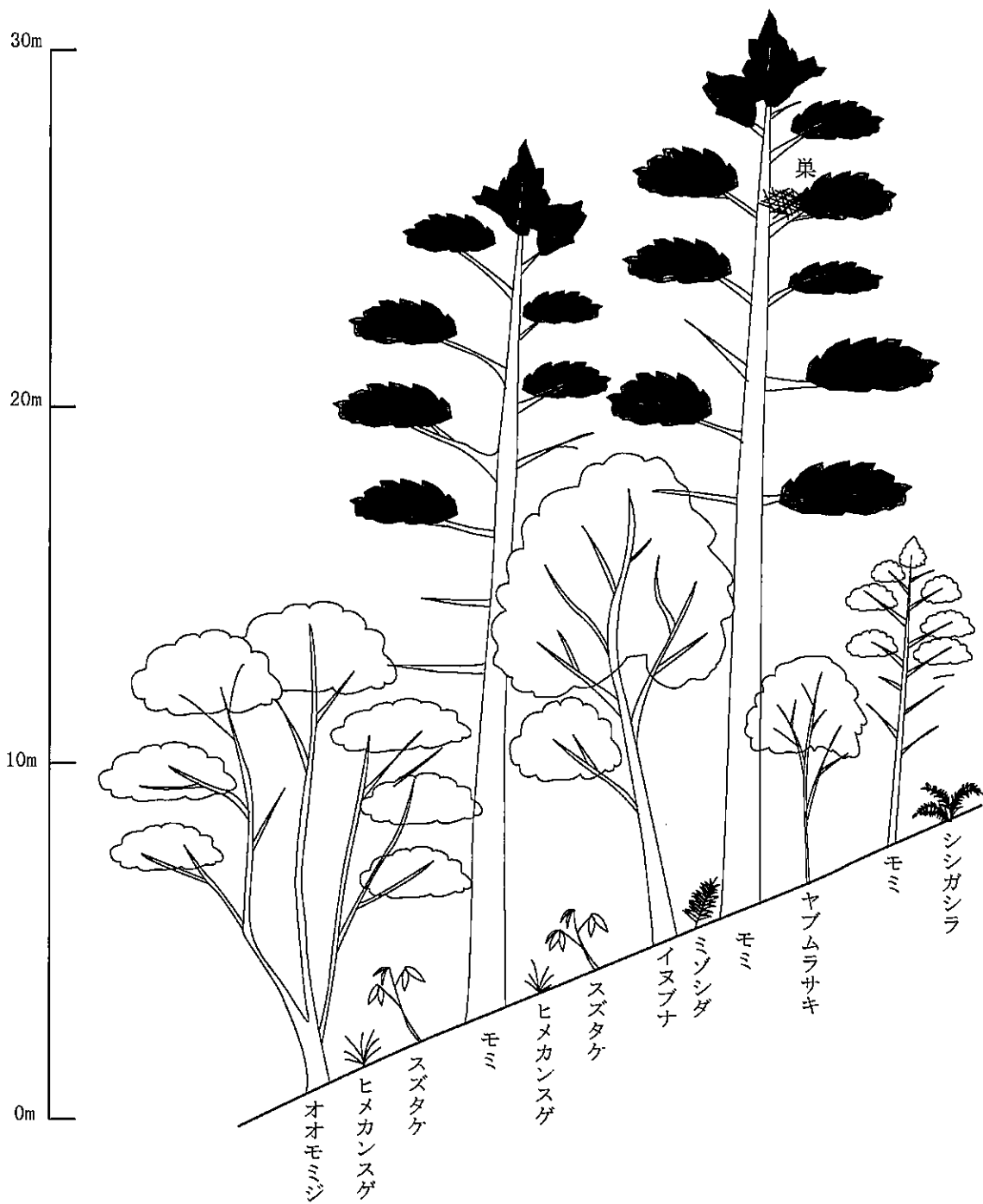


図 6-1.14 営巣地の植生断面図 (営巣木 N15)

③ 食痕の確認

巣 N15 周辺を踏査した結果、オオタカのものと考えられる食痕としてハト類と考えられる骨、レースバトの脚環、カラス類の羽毛を確認した。(写真 6-1.2 参照)。



ハト類と考えられる骨
(平成 29 年 9 月 11 日撮影)



カラス類の羽毛
(平成 29 年 9 月 11 日撮影)



ハト類と考えられる骨
(平成 30 年 6 月 6 日撮影)



カラス類の羽毛
(平成 30 年 6 月 6 日撮影)



レースバトの脚環
(平成 30 年 9 月 7 日撮影)

写真 6-1.2 食痕 (巣 N15 付近)

④ ビデオ調査

のビデオ調査結果は、図 6-1. 13（前出）及び表 6-1. 20 に示すとおりである。

平成 29 年、は、平成 28 年と同じ N15 を利用して繁殖を行った。4 月 17 日に N15 への出入りを確認、5 月 10 日に抱卵、6 月 5 日に孵化後 10 日程度と推定されるヒナを 3 個体確認した。7 月 5 日の行動圏調査時には巣の周辺で巣立ち間もない幼鳥を 2 個体確認したことから、少なくとも 2 個体のヒナが巣立ち、平成 29 年の繁殖に成功したものと判断した。なお、育雛中の 6 月 5 日のビデオ確認の結果、給餌されたエサは小～大型の鳥類であった。

平成 30 年、は、平成 29 年と同じ N15 を利用して繁殖を行った。4 月 12 日に造巣を確認、5 月 8 日には抱卵を確認した。しかし、6 月 5 日、6 日ともヒナは確認されなかった。行動圏調査においてもエサ運搬や幼鳥の出現などはなく、場所を変えて繁殖を行ったことを示す事象も確認されなかったことから、平成 30 年の繁殖は失敗に終わったものと判断した。

ビデオ調査を行った際に録音されていた音源は表 6-1. 21 に示すとおりである。N15 の付近では 工事が行われており、その工事に伴う騒音が発生していた。しかし、このような状況の中で は造巣、抱卵といった繁殖活動を行った。また、行動圏調査の結果、繁殖に失敗した後も は N15 付近に執着していたことから、工事を忌避したことによって繁殖に失敗した訳ではないと考えられる。

平成 30 年 5 月 8 日に録画した動画で抱卵中の雌個体の行動を確認したところ、工事騒音がしている中で居眠りをしながら落ち着いて抱卵していた。しかし、1 日のうち 3 回巣を空けており、このうちの 1 回（11:32～39 の約 7 分間）は巣の近くでハシブトガラスの鳴き声が出た後、キョロキョロと周囲を見回して警戒して巣から飛び出した。その直後、ハシブトガラスの鳴き声とオオタカの警戒声が聞こえたことから、雌個体が巣に接近したハシブトガラスを排斥する防衛行動をとったものと考えられる。このことは、ハシブトガラスとの種間関係の中で、外敵に対して巣が無防備になる時間があることを示していると考えられる。

表 6-1. 20 (1/2) 営巣木ビデオ調査結果： N15（平成 29 年）

調査期日	録画時間	主な行動
平成 29 年 3 月 13 日	9:15～16:05	巣への出入り等、繁殖兆候なし
平成 29 年 4 月 17 日	9:15～15:59	巣への出入り（1 回）
平成 29 年 5 月 10 日	9:03～16:07	雌個体の抱卵・転卵
平成 29 年 6 月 5 日	9:25～16:21	エサ搬入（小型鳥類 2 回、中型鳥類 1 回、大型鳥類（カラス類）1 回）

表 6-1. 20 (2/2) 営巣木ビデオ調査結果： ██████████ N15 (平成 30 年)

調査期日	録画時間	主な行動
平成 30 年 3 月 13 日	9:04~16:10	巣への出入り等、繁殖兆候なし。
平成 30 年 3 月 14 日	8:57~16:11	巣への出入り等、繁殖兆候なし。
平成 30 年 4 月 12 日	9:16~15:49	雌雄交代での造巣 (7 回)、巣への出入り (4 回)。
平成 30 年 5 月 8 日	9:26~16:12	雌個体の抱卵、転卵、造巣、巣への出入り (3 回)。
平成 30 年 6 月 5 日	8:59~16:08	ヒナの確認なし。巣への出入りなし。
平成 30 年 6 月 6 日	8:56~16:03	ヒナの確認なし。巣への出入り及び造巣 (2 回)。

表 6-1. 21 営巣木ビデオ調査で確認した N15 付近の音源 (平成 30 年)

調査期日	工事音源	その他音源
平成 30 年 3 月 13 日	切削音、金属音、重機の取壊し音が断続的に聞こえる	
平成 30 年 3 月 14 日	前日と同様	強風
平成 30 年 4 月 12 日	切削音、金属音、重機の取壊し音が断続的に聞こえる	強風 ガビチョウなど小鳥類
平成 30 年 5 月 8 日	打撃音が断続的に聞こえる	キビタキなど小鳥類
平成 30 年 6 月 5 日	重機の取壊し音 (3 月より大きい音) が断続的に聞こえる	
平成 30 年 6 月 6 日	前日と同様	

(2) [REDACTED]

① 営巣地の確認

[REDACTED] の出現は確認されなかった。[REDACTED] の踏査は平成 29 年に 2 回、平成 30 年に 2 回実施したが、いずれの調査でもオオタカの姿や鳴き声は確認されなかった。なお、過去に繁殖実績のある地点付近でプレイバック法（予め IC レコーダーに録音したオオタカの鳴き声を小型スピーカーから流し、オオタカの反応を確認する調査方法）を行ったが、オオタカの反応はなかった。

② 植生・地形の調査結果

[REDACTED] の新たな営巣木は確認されなかったため、植生・地形の調査は行わなかった。

③ 食痕の確認

[REDACTED] を踏査したが、食痕は確認されなかった。

(3) [REDACTED]

[REDACTED] の繁殖状況の詳細は、図 6-1. 16 に示すとおりである。

① 営巣地の確認

平成 29 年、平成 28 年の繁殖に利用した N16 の南側約 25m の位置にあるモミに新たに N17 が造られているのを確認した。4 月 17 日の営巣木ビデオ調査で造巣行動を確認したが、6 月 5 日のビデオ調査ではヒナは確認されず、成鳥の巣への出入りも確認されなかった。N17 の周辺にある N5、N14、N16 でも繁殖行動は確認されなかったことから、[REDACTED] は平成 29 年の繁殖に失敗した可能性が高いものと判断した。営巣木やその周囲を観察した範囲では、繁殖失敗の原因を示すような情報は得られなかった。

平成 30 年の繁殖には、平成 29 年に造巣された N17 が利用された。営巣木ビデオ調査では、4 月に巣への出入りが確認され、5 月に抱卵が確認された。6 月にはヒナが 3 個体いるのが確認された。7 月には巣に出入りする巣立ち後の幼鳥が 2 個体いるのが確認されたことから、[REDACTED] は平成 30 年の繁殖に成功したものと判断した。

貴重種保護の目的から 確認位置等については 公表しないこととしております。	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	4月17日にN17での造巣を確認した。									
5月10日に状況確認を行った際には、成鳥の抱卵行動は確認されなかつた。巣材には羽毛の付着はなく、巣の周辺での警戒行動等もなかつた。N5、N14、N16でも抱卵行動等は確認されず、繁殖しているかどうか確認できなかつた。	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
6月5日のビデオ調査の結果、ヒナは確認されず、成鳥の巣への出入りもなかつた。巣材には羽毛の付着はなく、巣の直下にもフンなどの痕跡はなかつたことから、繁殖は途中で失敗した可能性が高いものと判断した。	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	7月
	4月			5月			6月			7月

図 6-1. 16 (1/2) オオタカ () の繁殖状況 (平成 29 年)

※オオタカの抱卵期間は約 40 日、巣立ちは孵化後 35～41 日である。出典：「図鑑日本のワシタカ類」(森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男、平成 7 年)

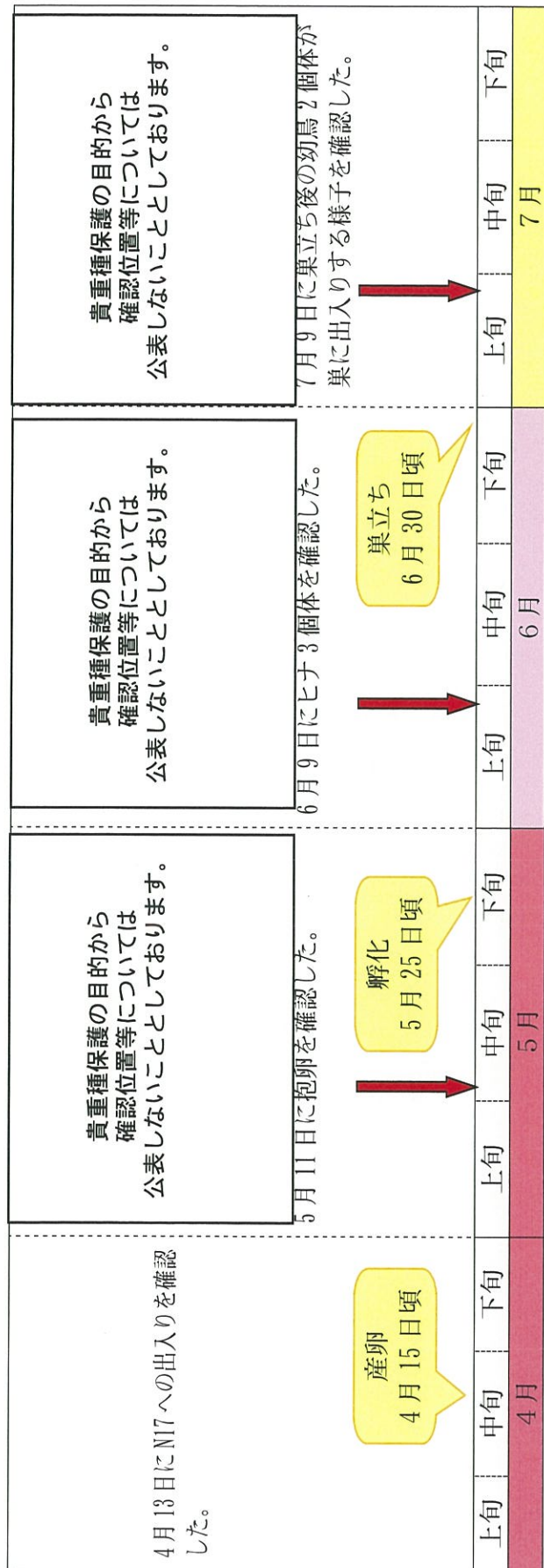


図 6-1. 16 (2/2) オオタカ () の繁殖状況 (平成 30 年)

※オオタカの抱卵期間は約 40 日、巣立ちは孵化後 35～41 日である。出典：「図鑑日本のワシタカ類」(森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男、平成 7 年)

② 植生・地形の調査結果

巣 N17 の植生・地形の調査結果は、表 6-1. 22、写真 6-1. 3、図 6-1. 17 に示すとおりである。

表 6-1. 22 営巣木調査結果（営巣木 N17）

階層	階層の高さ (m)	平均樹高 (m)	平均胸高直径 (cm)	立木密度 (本/ha)	植被率 (%)	主な構成種 (下線は優占種)
高木層	26	27.0	75.0	200	70	モミ
亜高木層	8	—	—	—	80	イヌブナ、コハウチワカエデ、アワブキ
低木層	4	—	—	—	40	アオキ、アワブキ、メグスリノキ、ヤブムラサキ
草本層	1.2	—	—	—	60	アズマネザサ、オオバジャノヒゲ、スズタケ、ミヤコザサ、チゴユリ、ヒメカンスゲ、ハリガネワラビ

斜面方位：SE、傾斜：30°

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

N17 周辺の林相 (平成 30 年 9 月 7 日撮影)

N17 (平成 30 年 9 月 7 日撮影)

写真 6-1. 3 営巣木調査結果（営巣木 N17）

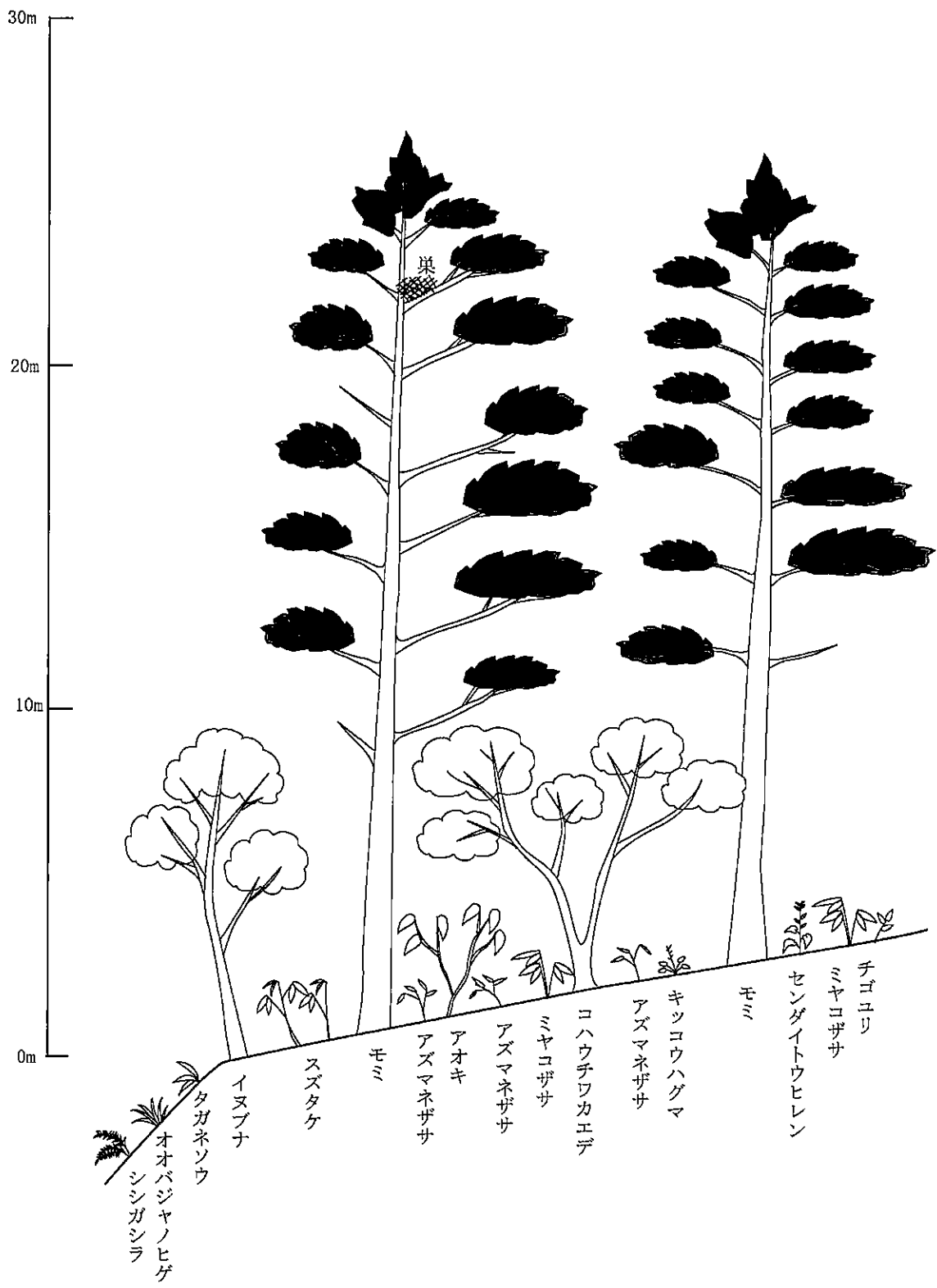


図 6-1.17 営巣地の植生断面図 (営巣木 N17)

③ 食痕の確認

巣 N17 周辺を踏査した結果、オオタカのものと考えられる食痕として、N17 付近でカワラバト（ドバト）の羽毛、ハト類の骨、レースバトの脚環を確認した。（写真 6-1.4 参照）。



カワラバト（ドバト）の羽毛
（平成 29 年 9 月 11 日撮影）



カワラバト（ドバト）の羽毛
（平成 30 年 7 月 9 日撮影）



ハト類の骨
（平成 30 年 9 月 7 日撮影）



レースバトの脚環
（平成 30 年 9 月 7 日撮影）

写真 6-1.4 食痕（巣 N17 付近）

④ ビデオ調査

■■■■のビデオ調査結果は、図 6-1. 16 及び表 6-1. 23 に示すとおりである。
平成 29 年、■■■■は、平成 28 年に繁殖した N16 の南側約 25m のモミに新たに N17 を造巣した。4 月 17 日に N17 での造巣行動を確認したが、6 月 5 日にはヒナは確認されず、成鳥の巣への出入りも確認されなかった。N17 周辺にある N5、N14、N16 を目視確認したが、繁殖行動は確認されず、成鳥の警戒行動等も確認されなかったことから、■■■■の平成 29 年の繁殖は失敗した可能性が高いものと判断した。

平成 30 年、XXXXXXXXXX は、平成 29 年に造巣した N17 を利用して繁殖を行った。4 月 13 日に巣への出入り、5 月 11 日に抱卵、6 月 9 日にヒナ 3 個体を確認、7 月 9 日に巣に出入りする巣立ち後の幼鳥 2 個体を確認したことから、N17 から少なくとも 2 個体のヒナが巣立ち、平成 30 年の繁殖に成功したものと判断した。

表 6-1. 23 (1/2) 営巣木ビデオ調査結果：XXXXXXXXXX N17 (平成 29 年)

調査期日	録画時間	主な行動
平成 29 年 4 月 17 日	8:30~15:21	造巣 (1 回)、巣への出入り (8 回)
平成 29 年 6 月 5 日	10:18~15:38	ヒナや成鳥の巣への出入りは確認されず

表 6-1. 23 (2/2) 営巣木ビデオ調査結果：XXXXXXXXXX N17 (平成 30 年)

調査期日	録画時間	主な行動
平成 30 年 4 月 13 日	9:36~15:47	巣への出入り (1 回)。
平成 30 年 5 月 11 日	8:35~16:44	雌雄交代での抱卵 (主には雌)、転卵。
平成 30 年 6 月 9 日	8:42~15:54	ヒナ 3 個体確認。成鳥の造巣。
平成 30 年 7 月 9 日	8:58~16:24	巣立ち後の幼鳥 2 個体と成鳥 1 個体の巣への出入り。

2) ハヤブサ

(1) [REDACTED]

[REDACTED]の繁殖状況は写真 6-1. 5、表 6-1. 24 に示すとおりである。

平成 29 年はビデオ映像で 2 月から 4 月の間に Nh2 に出入りする様子を確認しており、5 月 12 日には Nh2 方向へのエサ運搬を確認した。7 月 7 日には [REDACTED]にとまる巣立ち間もない幼鳥 3 個体を確認したことから、[REDACTED]は平成 29 年の繁殖に成功したものと判断した。

平成 30 年はビデオ映像で 2 月から 5 月の間に Nh2 に出入りする様子を確認しており、5 月 9 日には Nh2 方向へのエサ運搬を確認した。6 月 8 日には Nh2 [REDACTED]にとまる巣立ち間もない幼鳥 3 個体を確認し、7 月 5 日にも同様に幼鳥 3 個体を確認したことから、[REDACTED]は平成 30 年の繁殖に成功したものと判断した。

※Nh2 は内部が観察できない位置にあるため、抱卵や巣内育雛の様子は確認できなかった。



MP9 付近を飛翔する幼鳥
(平成 29 年 7 月 7 日撮影)

写真 6-1. 5 (1/2) ハヤブサ八木山橋つがいの繁殖状況 (平成 29 年)

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

[REDACTED]にとまる幼鳥 3 個体
(平成 29 年 7 月 7 日撮影)

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

Nh2 [REDACTED]にとまる幼鳥 3 個体
(平成 30 年 7 月 5 日撮影)

写真 6-1. 5 (2/2) ハヤブサ [REDACTED]の繁殖状況 (平成 30 年)

表 6-1. 24 (1/2) ハヤブサ [redacted] の繁殖関連行動 (平成 29 年)

確認日	確認事項
平成 29 年 2 月 15 日	Nh2 への出入り。(ビデオ映像)
平成 29 年 3 月 13 日	Nh2 での求愛給餌。(ビデオ映像)
平成 29 年 4 月 28 日	Nh2 へのエサ搬入。(ビデオ映像)
平成 29 年 5 月 12 日	Nh2 方向へのエサ運搬。(行動圏調査)
平成 29 年 7 月 7 日	[redacted] にとまる幼鳥 3 個体を確認。(行動圏調査)

表 6-1. 24 (2/2) ハヤブサ [redacted] の繁殖関連行動 (平成 30 年)

確認日	確認事項
平成 30 年 2 月 15 日	Nh2 への出入り。(ビデオ映像)
平成 30 年 3 月 12 日	Nh2 への出入り。(ビデオ映像)
平成 30 年 4 月 12 日	Nh2 へ雌雄交代で出入り。(ビデオ映像)
平成 30 年 5 月 8 日	Nh2 への出入り。(ビデオ映像)
平成 30 年 5 月 9 日	Nh2 方向へのエサ運搬。(行動圏調査)
平成 30 年 6 月 8 日	Nh2 [redacted] にとまる幼鳥 3 個体を確認。(行動圏調査)
平成 30 年 7 月 5 日	Nh2 [redacted] にとまる幼鳥 3 個体を確認。(行動圏調査)

(2) [REDACTED]

[REDACTED]の繁殖関連行動の確認状況は写真 6-1. 6、表 6-1. 25 に示すとおりである。

平成 29 年は 6 月 5 日に Nh1 内でヒナ 3 個体を確認し、7 月 9 日には巣穴 Nh1 の近傍で巣立ち間もない幼鳥 3 個体を確認したことから、[REDACTED]は平成 29 年の繁殖に成功したものと判断した。

平成 30 年は 4 月 1 日に Nh1 内で抱卵を確認、5 月 11 日にヒナを確認、6 月 13 日に巣穴 Nh1 付近で巣立ち間もない幼鳥 2 個体を確認したことから、[REDACTED]は平成 30 年の繁殖に成功したものと判断した。

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

Nh1 内で抱卵する [REDACTED] ♀ 個体
(平成 29 年 4 月 12 日撮影)

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

Nh1 内のヒナ 3 個体
(平成 29 年 6 月 5 日撮影)

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

Nh1 付近にとまる 3 個体の幼鳥
(平成 29 年 7 月 9 日撮影)

写真 6-1. 6 (1/2) ハヤブサ [REDACTED] の繁殖状況 (平成 29 年)

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

Nh1 内で抱卵する [] 雌個体
(平成 30 年 4 月 1 日撮影)

Nh1 のヒナ (右) と成鳥 (左)
(平成 30 年 5 月 11 日撮影)

貴重種保護の目的から
確認位置等については
公表しないこととしております。

Nh1 付近にとまる 2 個体の幼鳥
(平成 30 年 6 月 13 日撮影)

写真 6-1. 6 (2/2) ハヤブサ [] の繁殖状況 (平成 30 年)

表 6-1. 25 (1/2) ハヤブサ [] の繁殖関連行動 (平成 29 年)

確認日	確認事項
平成 29 年 4 月 12 日	Nh1 で抱卵。
平成 29 年 6 月 5 日	Nh1 でヒナ 3 個体を確認。
平成 29 年 7 月 9 日	Nh1 付近で幼鳥 3 個体を確認。

表 6-1. 25 (2/2) ハヤブサ [] の繁殖関連行動 (平成 30 年)

確認日	確認事項
平成 30 年 4 月 1 日	Nh1 で抱卵。
平成 30 年 5 月 11 日	Nh1 でヒナを確認。
平成 30 年 6 月 13 日	Nh1 付近で幼鳥 2 個体を確認。